

授 業 概 要

平成24年度

群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部

〒371-0023 群馬県前橋市本町2-12-1

TEL 027-210-1294

FAX 027-260-1294

目 次

理学療法専攻

1. 1年次授業計画（シラバス）	
1) 特別科目	
国家試験対策Ⅰ	1
2) 基礎科目	
人間哲学	3
医療英語Ⅰ	4
医療英語Ⅱ	5
法学	6
心理学	7
物理学	8
情報処理	9
基礎演習Ⅰ	10
ボランティア活動Ⅰ	12
3) 専門基礎科目	
解剖学Ⅰ	15
解剖学Ⅱ	16
解剖学実習	17
生理学Ⅰ	18
生理学Ⅱ	19
生理学実習	20
運動学Ⅰ	21
運動学Ⅱ	22
人間発達学	23
臨床心理学	24
一般臨床医学	25
リハビリテーション医学	26
リハビリテーション入門	27
保健医療福祉論	28
公衆衛生学	29
4) 専門科目	
理学療法概論	31
2. 2年次以降授業計画概要	33

目 次

作業療法専攻

1. 1年次授業計画（シラバス）	
1) 特別科目	
国家試験対策Ⅰ	41
2) 基礎科目	
人間哲学	43
医療英語Ⅰ	44
医療英語Ⅱ	45
法学	46
心理学	47
物理学	48
情報処理	49
基礎演習Ⅰ	50
ボランティア活動Ⅰ	52
3) 専門基礎科目	
解剖学Ⅰ	55
解剖学Ⅱ	56
解剖学実習	57
生理学Ⅰ	58
生理学Ⅱ	59
生理学実習	60
運動学Ⅰ	61
運動学Ⅱ	62
人間発達学	63
臨床心理学	64
一般臨床医学	65
リハビリテーション医学	66
リハビリテーション入門	67
保健医療福祉論	68
公衆衛生学	69
4) 専門科目	
作業療法入門	71
ひとと作業	72
ひとと作業活動Ⅰ	73
2. 2年次以降授業計画概要	75

シラバスの目的とその活用について

シラバスとは、皆さんが授業を受ける前に、それぞれの授業科目がどのような目標と内容で、またどのような計画によっておこなわれるかをあらかじめお知らせするものです。具体的には「授業到達目標」「授業概要」「授業計画」「教科書・参考書」「成績評価の方法と基準」「履修上の注意」等が記載されており、スムーズに科目選択ができるようになっています。またシラバスには予習復習欄やテストやレポートの内容が示されているため、計画的に学習を進める指標になります。

リハビリテーション学部では理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に則り、カリキュラムが編成されています。そのため必修科目が大半を占めています。つまり、各授業がそのまま国家試験に直結しているといえるでしょう。したがって、国家試験の過去問題や予想問題など、各授業内において、国家試験対策を意識した内容も多く含まれます。本シラバスを予習・復習に積極的に活用し、全員が国家試験に合格できることを強く望みます。

理学療法専攻

1年次授業計画（シラバス）

1) 特別科目

科目名	国家試験対策Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	各専攻教員	単位数	-
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

国家試験の問題形式に慣れ、1年前期科目の知識を定着させることを目標とする。

■授業の概要

1年前期に修得した国家試験指定科目について、実際の国家試験問題に触れることにより、知識の定着及び国家試験への対策方法を習得することを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第2回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第3回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第4回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第5回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第6回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第7回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第8回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第9回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第10回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第11回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第12回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第13回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第14回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第15回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。

■履修上の注意

必ず復習を行い、理解を確実なものとする。

■評価方法

■教科書

配布資料

■参考書

各国家試験対策本

2) 基礎科目

科目名	人間哲学			担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

--

■授業の概要

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとうてみる学問をねらいとしている。孔子は人間にいかんに住くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。	
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。	
第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。	
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章)	
第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)	
第6回	家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)	
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)	
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)	
第9回	国に道あると無きとに閑せず節操を持つべきを子路に示す。(右第十、十一章)	
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)	
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)	
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。	
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。	
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。	
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。	

■履修上の注意

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

衆妙の門 鈴木 利定 中央法規出版
 儒教のころ 鈴木 利定 中央法規出版
 咸有一徳

■参考書

--

科目名	医療英語 I			担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①英語でコミュニケーションをとる自信を付けることができる。
 ②理学療法士、作業療法士の現場で必要となる語彙やフレーズを身につけることができる。

■授業の概要

日常会話に必要な英語の基礎力を養い、それとともに実践的な会話練習で医療用の語彙やフレーズを身につけていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/自己紹介、レッスン内容の説明、'getting to know you' 活動、クラスルームイングリッシュ。	教科書P6+7を読んでおく
第2回	患者の個人情報を尋ね、フォームに書き込めるようにする。①	教科書P8+9を読んでおく
第3回	患者の個人情報を尋ね、フォームに書き込めるようにする。② 数字、時間、日付を学ぶ。	
第4回	患者の個人情報を尋ね、フォームに書き込めるようにする。③ 1日のスケジュールを学ぶ。	教科書P30+31を読んでおく
第5回	患者との日常会話。① 家族について学ぶ。	教科書P12～14を読んでおく
第6回	患者との日常会話。② 天気、場所の行き方について学ぶ。	教科書P55、P18～20を読んでおく
第7回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内の案内、病院内で使われる会話を学ぶ。①	教科書P21+22、P106を読んでおく
第8回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内の案内、病院内で使われる会話を学ぶ。②	
第9回	今までの復習。	今までの勉強を読んで復習しておく。
第10回	小テスト	今までの勉強を読んで復習しておく。
第11回	身体部位、身体の動きに関する英語、患者に尋ねる時の英語について学ぶ。リハビリテーションに関する会話について学ぶ。①	
第12回	身体部位、身体の動きに関する英語、患者に尋ねる時の英語について学ぶ。リハビリテーションに関する会話について学ぶ。②	
第13回	身体部位、身体の動きに関する英語、患者に尋ねる時の英語について学ぶ。リハビリテーションに関する会話について学ぶ。③	
第14回	第11回～13回までの復習。	第11回～13回までの勉強を読んで復習しておく。
第15回	小テスト	第11回～13回までの勉強を読んで復習しておく。

■履修上の注意

毎回の聞きとり訓練とペアワークは英語を使う貴重な機会である。照れないでしっかり声を出して、英語の表現を口や耳で覚えること。

■評価方法

- 筆記試験 (■論述 ■客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
 評価配分: 期末試験 100%

■教科書

NEW ENGLISH UPGRADE ① Steven Gershon and Chris Mares MACMILLAN

■参考書

科目名	医療英語 II		担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	選択

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①英語でコミュニケーションをとる自信を付けることができる。
 ②理学療法士、作業療法士の現場で必要となる語彙やフレーズを身につけることができる。
 ③エッセイの内容を学ぶことができる

■授業の概要

日常会話に必要な英語の基礎力、応用力を養い、それとともに実践的な会話練習で医療用の語彙やフレーズを身につけていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/患者との日常会話に必要な英語。①	教科書P40+41を読んでおく
第2回	患者との日常会話に必要な英語。②	教科書P42+44を読んでおく
第3回	患者との日常会話に必要な英語。③	教科書P58+59を読んでおく
第4回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話。①	
第5回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話。②	
第6回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話。③	
第7回	今までの復習。	今までの勉強を読んで復習しておく。
第8回	小テスト	今までの勉強を読んで復習しておく。
第9回	簡単な長文を理解できるようにする。表やグラフの読みとり方、%や分数の頻度を表す英語を学ぶ。①	
第10回	簡単な長文を理解できるようにする。表やグラフの読みとり方、%や分数の頻度を表す英語を学ぶ。②	
第11回	簡単な長文を理解できるようにする。表やグラフの読み取り方、%や分数の頻度を表す英語を学ぶ。③	
第12回	第9回～11回までの復習	第9回～11回までの勉強を読んで復習してくる。
第13回	小テスト	第9回～11回までの勉強を読んで復習してくる。
第14回	日常会話。未来、計画 (be going to)。①	教科書P64+65を読んでおく
第15回	日常会話。未来、計画 (be going to)。② まとめ	教科書P66+67を読んでおく。

■履修上の注意

毎回の聞きとり訓練とペアワークは英語を使う貴重な機会である。照れないでしっかり声を出して、英語の表現を口や耳で覚えること。

■評価方法

■筆記試験 (■論述 ■客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
 評価配分: 期末試験 100%

■教科書

NEW ENGLISH UPGRADE ① Steven Gershon and Chris Mares MACMILLAN

■参考書

--

科目名	法学			担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②法学概論につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ④民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ⑤法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

社会福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となる。そこで、社会福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習を行なう。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行く。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/法学概論1(市民生活と社会規範)	教科書の1～8頁を読むこと
第2回	法学概論2(市民生活の各領域と主な関係法 以下)	教科書の9～20頁を読むこと
第3回	憲法1(総論、基本的人権総論(私人間効力あたりまで))	教科書の21～32頁を読むこと
第4回	憲法2(基本的人権総論(13条、14条)、精神的自由)	教科書の33～39頁を読むこと
第5回	憲法3(経済的自由、社会権)	教科書の40～45頁を読むこと
第6回	憲法4(上記以外の人権、国会、内閣)	教科書の46～58頁を読むこと
第7回	憲法5(裁判所、財政、地方自治)	教科書の59～70頁を読むこと
第8回	民法1(総則)	教科書の71～82頁を読むこと
第9回	民法2(物件)	教科書の83～94頁を読むこと
第10回	民法3(契約1)	教科書の95～108頁を読むこと
第11回	民法4(契約2、債権1)	教科書の109～117頁を読むこと
第12回	民法5(債権2)	教科書の118～128頁を読むこと
第13回	民法6(親族)	教科書の129～160頁を読むこと
第14回	民法7(相続)	教科書の161～180頁を読むこと
第15回	まとめ	ノート等を見直すこと

■履修上の注意

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要である。
また、別掲の参考書での学習も勧める。
※社会福祉主事任用資格取得選択科目

■評価方法

■筆記試験(論述 ■客観) レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分: 筆記試験 100%

■教科書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」 光生館, 2011年
有斐閣「ポケット六法」

■参考書

授業中に随時紹介する

科目名	心理学			担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①発達という観点から人を縦断的にとらえられるようになる
- ②学習理論を理解し、人の行動と記憶の基本的メカニズムを理解できる
- ③感覚や知覚の仕組みや特徴を理解できる
- ④思考と言語の発達や特徴を理解できる
- ⑤防衛機制という観点から人の行動やパーソナリティをとらえることができる
- ⑥知能と知能を調べる方法を理解できる
- ⑦パーソナリティを調べる方法を理解できる

■授業の概要

心を対象としたこれまでの研究成果から、人を理解する上で基本となる、発達、学習、記憶、思考、言語、知能、動機、防衛、パーソナリティなどについて、幅広く学んでいく。国家試験関連科目である臨床心理学の基礎となる科目であり、その他の関連科目とも連動する内容となっているので、積極的に学習すること。〈関連科目：臨床心理学、人間発達学、精神医学他〉

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 10章心理学の歴史：心理学史を振り返りながら、心をめぐる考え方の変遷を追いつながら、心についての多様な見方を理解する。	教科書10章を予習すること
第2回	発達：遺伝と環境 環境と遺伝、レディネスなど	教科書第3章を予習すること
第3回	エリクソンの発達の漸成理論（8段階説）とアイデンティティ論 アイデンティティ・ゲーム 3歳と10歳の自我の発達など	教科書257頁～258頁を予習すること
第4回	学習 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論について	教科書第4章65頁～80頁を予習すること
第5回	記憶 記憶のネットワーク理論、記憶の種類	教科書81頁～92頁を予習すること
第6回	記憶の障害 健忘など	教科書93頁～100頁を予習すること
第7回	感覚・知覚 感覚の種類 視知覚について	教科書101頁～118頁を予習すること
第8回	錯視・錯覚・形・興行きの知覚、ゲシュタルト要因など	教科書119頁～141頁を予習すること
第9回	聴知覚 触覚 体性感覚について	教科書151頁～165頁を予習すること
第10回	思考・言語 ピアジェの認知発達段階説	教科書167頁～181頁を予習すること
第11回	非言語的・言語的コミュニケーション	教科書189頁～203頁を予習すること
第12回	動機づけと防衛機制	教科書228頁～236頁を予習すること
第13回	個人差 知能モデルと知能検査	教科書239頁～247頁を予習すること
第14回	パーソナリティ理論とパーソナリティ検査①	教科書248頁～255頁を予習すること
第15回	パーソナリティ検査②	教科書248頁～255頁を予習すること

■履修上の注意

国家試験に関連する内容を中心に講義を行う。授業で学習した内容が、実際の臨床現場ではどのように展開されるかを、各自でさらに調べながら理解を深めていくこと。教科書はすべてを扱うことができないが、熟読すれば、他の教科の理解にもつながるので、全部読了すること。

■評価方法

■筆記試験（論述 ■客観） レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 評価配分：原則筆記試験100%、60%以上の得点であることが合格の前提となる。
 小テストは評価に含めないが、国家試験対策として重要である。

■教科書

心理学（第4版）（2011）鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編著 東京大学出版会

■参考書

--

科目名	物理学			担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①運動の表し方を知り、式やグラフで運動を表すことができる。
 ②力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用してヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
 ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し、説明できる。
 ④医療で実際に起こりうる事象、使用する器具類に応用されている物理学を知り、説明できる。

■授業の概要

この授業では物理学の基本的なことを理解し、実際に物理学がヒトの体や医療の現場、医療機器について応用されている例を知り、興味・関心をもって自ら応用していけるようになることを目的とする。
 「運動学」の基礎となり、医療現場で使用する機器の原理を理解する基礎にもなっている。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/(1) はじめに ①数値の扱い ②単位 ③ベクトル	教科書p23～24、p11～13、p15
第2回	(2) 力学の世界 ①位置・速度・加速度	教科書p2～11
第3回	” ②力と運動	教科書p19～23、p25～28
第4回	” ”	教科書p29～39
第5回	” ③円運動と単振動	教科書p39～45
第6回	” ④運動量と衝突	教科書p45～51
第7回	” ⑤仕事量とエネルギー	教科書p51～61
第8回	” ⑥つり合いと変形	教科書p61～67
第9回	” ”	”
第10回	(3) 熱の世界	教科書p70～76
第11回	(4) 流体の世界	教科書p78～89
第12回	(5) 波と光と音の世界	教科書p92～108
第13回	(6) 電気と磁気の世界 ①電荷・電場・電流	教科書p110～125
第14回	” ②磁荷と磁場 ③交流	教科書p125～134
第15回	(7) 放射線と微視の世界 まとめ	教科書p136～148

■履修上の注意

高校で物理を履修していなくても良いが、物理学ではものの考え方を学ぶので、一つ一つ自分の頭で納得するまで考えることが必要である。
 また、物理学は積み重ねで成り立っているため、わからないことがあるとその先も理解できなくなる。わからないことがあったらそのままにせず、授業中か終了後または次の時間の最初に必ず質問して理解するようにすること。

■評価方法

■筆記試験 (□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 成績配分: 筆記試験100%

■教科書

看護・医療技術者のための たのしい物理 中野正博著 日本理工出版会

■参考書

看護にいかす物理学 前田昌信著 医学書院

科目名	情報処理			担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①パソコンの基本的な操作を理解する。
 ②Microsoft Wordでレポート等の文書を作成できる。
 ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。

■授業の概要

授業を通しパソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようにすることを目標とする。他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordとExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多くある。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/(概論) オリエンテーションと初めてのパソコン操作	教科書 2～18ページ
第2回	(概論) インターネットの利用とセキュリティ	資料を別途配布
第3回	(Word) キーボードの操作と日本語等の入力	教科書 20～33ページ
第4回	(Word) 文章の入力と保存・印刷	教科書 34～47ページ
第5回	(Word) 各種の書式設定	教科書 50～58ページ
第6回	(Word) 表を含む文章の作成	教科書 62～71ページ
第7回	(Word) 図や写真を含む文書の作成	教科書 72～89ページ
第8回	(Excel) Excelの基本操作	教科書 92～103 ページ
第9回	(Excel) 表の作成	教科書 104～127ページ
第10回	(Excel) 表の書式設定や各種機能	資料を別途配布
第11回	(Excel) グラフの作成	教科書 129～145ページ
第12回	(Excel) 関数の基本	教科書 148～177、205～209 ページ
第13回	(Word・Excel) WordとExcelの連携	資料を別途配布
第14回	レポート作成実習	
第15回	レポート作成実習	

■履修上の注意

なるべく休まないこと
 USBメモリを用意すること

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) ■レポート 口頭試験 実地試験 その他
 成績配分レポート100%

■教科書

パソコン教科書 Word/Excel/Power Point2007 Windows Vista対応 Officew塾著 東京法令出版

■参考書

なし

科目名	基礎演習 I			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	1
対象学年	1年通年	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決能力を養う。

■授業の概要

建学の精神を理解し、自律的実践的能力を身につける。また、人生観や職業観を深め、2学年以降への円滑な移行が図れるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション/学長講話及び基礎演習について。	咸有一徳
第2回	建学の精神について・中田教授講話 / 話し合い	レポート 咸有一徳
第3回	親睦体育大会準備	
第4回	環境美化活動について / 話し合い → 発表	レポート 咸有一徳
第5回	図書館利用指導	
第6回	日常生活指導①、読書指導①	咸有一徳
第7回	レポートの書き方	
第8回	発表の仕方	
第9回	租税教室	
第10回	七夕祭り準備	
第11回	七夕祭り準備	
第12回	七夕祭り準備	
第13回	七夕祭り反省 → 発表	レポート
第14回	一般常識テスト(学研)	
第15回	前期のまとめ	レポート

■履修上の注意

基礎演習はボランティア活動、環境美化活動と合わせ、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。また、学外での活動や学外講師の講話については授業時間を変更して実施することもあり得るので留意されたい。

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) ■レポート 口頭試験 実地試験 その他
成績配分: 授業提出レポート100%

■教科書

鈴木利定、中田勝: 咸有一徳・中央法規

■参考書

科目名	基礎演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	1
対象学年	1年通年	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決能力を養う。

■授業の概要

建学の精神を理解し、自律的実践的能力を身につける。また、人生観や職業観を深め、2学年以降への円滑な移行が図れるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション/日常生活指導②(環境美化指導含む)、読書指導②	咸有一徳
第17回	建学の精神について…中田教授講話 / 話し合い	レポート 咸有一徳
第18回	昌賢祭準備	
第19回	昌賢祭準備	
第20回	昌賢祭準備	
第21回	昌賢祭準備	
第22回	昌賢祭反省 → 発表	レポート
第23回	就職ガイダンス…社会人基礎力について / 話し合い	
第24回	地域交流プログラム…中央地区クリスマス会企画	
第25回	地域交流プログラム…中央地区クリスマス会企画	
第26回	地域交流プログラム反省 → 発表	レポート
第27回	ようこそ先輩(卒業生が現職について説明)	レポート
第28回	日本語能力テスト(学研)	
第29回	国家試験について(4年生による講話を含む)	レポート
第30回	後期のまとめ	レポート

■履修上の注意

基礎演習はボランティア活動、環境美化活動と合わせ、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。また、学外での活動や学外講師の講話については授業時間を変更して実施することもあり得るので留意されたい。

■評価方法

筆記試験(論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
成績配分: 授業提出レポート100%

■教科書

鈴木利定、中田勝: 咸有一徳・中央法規

■参考書

科目名	ボランティア活動I			担当教員 (単位認定者)	橋本広信 (他)	単位数	1
対象学年	1年	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場で学ぶ。
- ②医療に携わるものとしての心構えを知る。
- ③ボランティア活動をする上での基本的態度を身につける。
- ④本学におけるボランティア活動の位置づけを理解できる。

■授業の概要

昌賢学園やリハビリテーション学部におけるボランティア活動の位置づけについて学ぶ。また、ボランティアへ参加するにあたっての必要な知識や技術を学ぶ。
また、本キャンパスの特徴を活かし、地域の中で活かされるボランティア活動を計画し、行っていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション ボランティア活動とは：本学におけるその位置づけ、目的	ボランティア活動体験
第2回	ボランティア活動の実際：リハビリテーション学部における位置づけと具体的実施方法について説明する	ボランティア活動体験
第3回	高齢者体験：高齢者体験を行う	ボランティア活動体験
第4回	車椅子体験：車椅子の操作方法・介助方法を学ぶ	ボランティア活動体験
第5回	ボランティア活動基礎知識①：障害に応じた対応方法について。各自で調べて発表する	各自課題を調べてまとめる
第6回	ボランティア活動基礎知識①：障害に応じた対応方法について。各自で調べて発表する	各自課題を調べてまとめる
第7回	ボランティア活動基礎知識①：障害に応じた対応方法について。各自で調べて発表する	各自課題を調べてまとめる
第8回	講話①：ボランティア活動の実際（体験豊富な外部講師）	受講内容をまとめる
第9回	ボランティア標語の作成、話し合い①	標語の作成
第10回	ボランティア標語の作成、話し合い②	標語の作成
第11回	ボランティア活動報告① 発表及びレポート	発表準備
第12回	地域貢献活動：七夕祭りの準備	ボランティア活動体験
第13回	地域貢献活動：七夕祭りの準備	ボランティア活動体験
第14回	地域貢献活動：七夕祭りの実施と反省会	ボランティア活動体験
第15回	前期のまとめ / 夏休み中の活動について話し合い	活動準備のための調査

■履修上の注意

講義は全て出席することが前提として進行する。理学療法や作業療法の学問を学ぶ上での基礎となる知識も伝えるため、積極的に参加することが望まれる。

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他(発表ほか)
成績配分：レポート50%、参加態度・発表50%

■教科書

昌賢学園 ボランティアハンドブック

■参考書

講義内で適宜紹介する

科目名	ボランティア活動I			担当教員 (単位認定者)	橋本広信 (他)	単位数	1
対象学年	1年	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場で学ぶ。
- ②医療に携わるものとしての心構えを知る。
- ③ボランティア活動をする上での基本的態度を身につける。
- ④本学におけるボランティア活動の位置づけを理解できる。

■授業の概要

昌賢学園やリハビリテーション学部におけるボランティア活動の位置づけについて学ぶ。また、ボランティアへ参加するにあたっての必要な知識や技術を学ぶ。
また、本キャンパスの特徴を活かし、地域の中で活かされるボランティア活動を計画し、行っていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期ボランティア活動のオリエンテーション 夏休み中ボランティア活動報告	講義、話し合い
第17回	学校行事ボランティア参加事前指導(障害者スポーツ大会・あそか祭り)	講義、ボランティア活動体験
第18回	ボランティア活動基礎知識②: 医療・福祉領域における各病院・施設の特徴について調べて発表する	各自課題を調べてまとめる 発表準備
第19回	ボランティア活動基礎知識②: 医療・福祉領域における各病院・施設の特徴について調べて発表する	各自課題を調べてまとめる 発表準備
第20回	ボランティア活動基礎知識②: 医療・福祉領域における各病院・施設の特徴について調べて発表する	各自課題を調べてまとめる 発表準備
第21回	地域貢献ボランティア活動準備(企画立案)	企画準備、活動準備、ボランティア活動体験
第22回	地域貢献ボランティア活動準備(役割分担)	企画準備、活動準備、ボランティア活動体験
第23回	地域貢献ボランティア活動 実施準備	企画準備、活動準備、ボランティア活動体験
第24回	地域貢献ボランティア活動 反省 レポート	レポート
第25回	ディスカッション: ボランティア活動について改めて考える	ディスカッション準備
第26回	講話②: 国際貢献ボランティア活動報告(外部講師)	講義資料、内容参照
第27回	ボランティア活動発表会準備	発表準備、ボランティア活動体験
第28回	ボランティア活動発表会準備	発表準備
第29回	ボランティア活動発表会準備	発表準備
第30回	後期のまとめ / 1年を振り返っての反省	振り返り

■履修上の注意

講義は全て出席することが前提として進行する。理学療法や作業療法の学問を学ぶ上での基礎となる知識も伝えるため、積極的に参加することが望まれる。

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) ■レポート 口頭試験 実地試験 ■その他(発表ほか)
成績配分: レポート50%、参加態度・発表50%

■教科書

昌賢学園 ボランティアハンドブック

■参考書

講義内で適宜紹介する

3) 專門基礎科目

科目名	解剖学Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。⑥骨の連結の種類と構造を説明することができる。⑦脊柱と胸郭の連結を説明することができる。⑧四肢の骨格の連結と運動を説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることを目的とする。また、生理学、運動学等の基礎専門科目、整形外科学や神経内科学等の専門科目、理学療法・作業療法専門科目など全ての科目の基礎となるため、しっかりと知識を定着させること。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/人体の各部の名称と方向用語、全身骨格について説明することができる。	解剖トレーニングノート p16、37-40
第2回	骨格系-1 上肢の骨について説明することができる。	p17-19
第3回	骨格系-2 骨盤の構成について説明することができる。	p19-20、30-31
第4回	骨格系-3 下肢の骨について説明することができる。	p21-22
第5回	骨格系-4 椎骨の基本型と脊柱の構成について説明することができる。	p23-27
第6回	骨格系-5 胸郭の構成について説明することができる。	p28-29
第7回	骨格系-6 頭部の各骨について説明することができる。	p32-36
第8回	筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨とその連結について説明することができる。	p126-130
第9回	筋系-2 体幹の筋について説明することができる。	p131-136
第10回	筋系-3 脊柱と胸郭の連結について説明することができる。	p131-136
第11回	筋系-4 上肢の筋について説明することができる。	p137-140
第12回	筋系-5 上肢の骨格の連結と運動について説明することができる。	p137-140
第13回	筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結と運動について説明することができる。	p141-143
第14回	筋系-7 下肢の筋について説明することができる。	p144-151
第15回	筋系-8 下肢の連結と運動について説明することができる。	p144-151

■履修上の注意

復習に重点を置き、今日学んだことは、今日中に説明することができるようになること(必須)。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
成績配分:筆記試験100%(必要に応じて授業中のみにテスト、レポートを10%含めることがある)。
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第3版. 野村巖, 医学書院
解剖トレーニングノート. 竹内修二, 医学教育出版社

■参考書

カラー人体解剖学-構造と機能:ミクロからマクロまで.F.H.マティーニ, 西村書店
ネッター解剖学アトラス.Frank H.Netter, 南江堂
プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系. 坂井建雄, 医学書院
ネッター解剖生理学アトラス.John T.Hansen, 南江堂

科目名	解剖学Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。
- ②末梢神経(体性神経(脳神経、脊髄神経)、自律神経(交感神経、副交感神経))の構成と分布先が説明することができる。
- ③骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連付けて説明することができる。

■授業の概要

人体の形態と構造の全体的な特徴を理解し、骨格系、筋系および神経系の構造と機能について知り、理解できるようになることを目的とする。また、生理学、運動学等の基礎専門科目、整形外科学や神経内科学等の専門科目、理学療法・作業療法専門科目など全ての科目の基礎となるため、しっかりと知識を定着させること。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/神経系について説明できる。	解剖トレーニングノート p178,157,222,236
第2回	脳と脊髄-1 中枢神経系の全体的な構造について説明できる。	p178-182
第3回	脳と脊髄-2 大脳と間脳の構造について説明できる。	p183-189
第4回	脳と脊髄-3 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について説明できる。	p189-201
第5回	脳と脊髄-4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路について説明できる。	p189-201
第6回	脊髄神経-1 脊髄神経後枝の構成とその枝について説明できる。	p156-158
第7回	脊髄神経-2 頸神経叢の構成とその枝について説明できる。	p159
第8回	脊髄神経-3 腕神経叢の構成とその枝について説明できる。	p160-161
第9回	脊髄神経-4 腕神経叢の構成とその枝について説明できる。	p160-161,162-165
第10回	脊髄神経-5 肋間神経の構成とその枝について説明できる。	p166
第11回	脊髄神経-6 腰神経叢の構成とその枝について説明できる。	p167-168
第12回	脊髄神経-7 仙骨神経叢の構成とその枝について説明できる。	p169-173
第13回	脊髄神経-8 仙骨神経叢の構成とその枝について説明できる。	p169-173
第14回	脳神経 脳神経の経路と機能、線維構成について説明できる。	p222-232
第15回	自律神経 自律神経(交感神経、副交感神経系)について説明できる。	p236-240

■履修上の注意

解剖見学実習は出席を前提とするため欠席しないこと。
復習に重点を置き、今日学んだことは、今日中に説明することができるようになること(必須)。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
成績配分:筆記試験100%(必要に応じて授業中のみにテスト、レポートを10%含めることがある)。
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第3版.野村巖,医学書院
解剖トレーニングノート.竹内修二,医学教育出版社

■参考書

カラー人体解剖学-構造と機能:ミクロからマクロまで.F.H.マティーニ,西村書店
ネッター解剖学アトラス.Frank H.Netter,南江堂
プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系.坂井建雄,医学書院
ネッター解剖生理学アトラス.John T.Hansen,南江堂

科目名	解剖学実習			担当教員 (単位認定者)	多田 真和	単位数	1
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①人体の構造を、器官系別に分類し理解できるようになる。
 ②人体の構造を、自らの手で描いて説明することができるようになる。

■授業の概要

生理学、生化学および運動学等の基礎専門科学、整形外科学や神経内科学等の専門科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目のすべての科目の基礎的知識となるため、しっかりと知識を定着させ自らのものとなるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/呼吸器系(1)	教科書の該当部分を読んでおく。
第2回	循環器系(1)	教科書の該当部分を読んでおく。
第3回	脳神経1:中枢神経の機能、大脳半球基底核の位置関係	教科書の該当部分を読んでおく。
第4回	脳神経2:中枢神経の血管系、脳脊髄液の循環	教科書の該当部分を読んでおく。
第5回	脳神経3:脳神経、末梢神経、自律神経 について	教科書の該当部分を読んでおく。
第6回	脳神経4:画像診断(CT、MRI)への応用解剖	教科書の該当部分を読んでおく。
第7回	循環器系(2)	教科書の該当部分を読んでおく。
第8回	循環器系(3)	教科書の該当部分を読んでおく。
第9回	消化器系(1)	教科書の該当部分を読んでおく。
第10回	消化器系(2)	教科書の該当部分を読んでおく。
第11回	消化器系(3)	教科書の該当部分を読んでおく。
第12回	泌尿器系	教科書の該当部分を読んでおく。
第13回	内分泌系(1)	教科書の該当部分を読んでおく。
第14回	内分泌系(2)	教科書の該当部分を読んでおく。
第15回	平衡聴覚器	教科書の該当部分を読んでおく。

■履修上の注意

群馬大学での見学実習には必ず出席すること。

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 成績配分:筆記試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 解剖学第3版(医学書院)

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	生理学I			担当教員 (単位認定者)	牧陽子	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①生理学に興味を持つこと。
- ②基本事項の正確・簡潔な理解を目指すこと。
- ③解剖学・病理学と合わせて理解を深めること。
- ④運動学・薬理学・内科学等の基礎科目、専門科目の基礎を築くこと。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的とし、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ説明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、実践的に理解が進められるように授業を進める。細かい知識にとらわれることなく、鳥瞰的理解を目指すこと。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	復習・生理学で学びたいことをまとめておく
第2回	血液成分・血液細胞の生成と分化、血液凝固と線溶現象について学ぶ。	予習・教科書 第2章 血液 A-Gを読む
第3回	循環の調節を学ぶ。	予習・教科書 第3章 循環 A-Cを読む
第4回	心臓の拍動の自動性と心拍出量、心臓の刺激伝導系に関して学ぶ。	予習・教科書 第3章 循環 D-Hを読む
第5回	呼吸運動、ガス交換とガスの運搬、呼吸中枢に関して学ぶ。	予習・教科書 第4章 呼吸を読む
第6回	口腔内消化（唾液分泌機序）、嚥下運動/胃内消化/腸内消化吸収を学ぶ。	予習・教科書第5章消化と吸収A-Fを読む
第7回	肝臓・胆嚢・膵臓機能、消化酵素を学ぶ。	予習・教科書第5章消化と吸収G-Jを読む
第8回	排尿中枢を含む排尿機構を学ぶ。	予習・教科書 第6章 腎臓と排泄を読む
第9回	体液の組成（酸塩基平衡）を学ぶ。	予習・教科書 第7章 酸-塩基平衡を読む
第10回	ホルモンの基礎（ビタミンの差異）、視床下部-脳下垂体系に関して学ぶ。	予習・教科書 第8章 内分泌 A-Bを読む
第11回	甲状腺・副甲状腺・膵臓に関して学ぶ。	予習・教科書 第8章 内分泌 C-Eを読む
第12回	副腎・性腺・松果体に関して学ぶ。	予習・教科書 第8章 内分泌 F-Jを読む
第13回	糖・蛋白・脂肪代謝、体温調節中枢について学ぶ。	予習・教科書 第15章 代謝と体温を読む
第14回	運動における生体の生理的变化を学ぶ。	予習・教科書 第16章 運動生理を読む
第15回	予備日とし、理解の不十分な部分の質問を受け付ける。	予習・質問をまとめておく

■履修上の注意

出来る限り授業内に理解をして、分からないところはその場で解決すること。
授業内での質問・発言を奨励する。

■評価方法

■筆記試験 (□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他 授業参加
成績配分: 筆記試験 100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内に随時紹介する。

科目名	生理学Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	牧 陽子	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①生理学に興味を持つこと。
- ②基本事項の正確・簡潔な理解を目指すこと。
- ③解剖学・病理学と合わせて理解を深めること。
- ④運動学・薬理学・内科学等の基礎科目、専門科目の基礎を築くこと。

■授業の概要

後期では神経系を中心に講義を行なう。運動器のリハビリテーションにおいても、中枢神経系の理解は今後ますます重要となる。高次脳機能を含む神経系の機能を理解し、疾患理解・リハビリテーション実施につながる理解を目指すこと。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/分子生物学の基礎を学ぶ。	予習・第1章細胞と内部環境を読む
第2回	体性感覚(皮膚感覚・深部感覚)・内臓感覚を学ぶ。	予習・第14章 感覚 A-Cを読む
第3回	視覚に関する解剖と中枢における視覚処理・知覚を学ぶ。	予習・第14章 感覚 Dを読む
第4回	聴覚に関する解剖と、中枢における聴覚・平衡感覚処理を学ぶ。	予習・第14章 感覚 E-Hを読む
第5回	シナプス、神経筋接合部の伝達様式の相同・差異を学ぶ。	予習・第11章 神経系を読む
第6回	抹消神経に分類される自律神経(交感・副交感神経系)の機能を学ぶ	予習・第12章 抹消神経系を読む
第7回	脊髄・延髄・橋・中脳・脳幹網様体の構造・機能を学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 A-Dを読む
第8回	視床下部の調節機能、大脳辺縁系の情動機能と解剖を学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 E,Hを読む
第9回	小脳・大脳基底核の運動調節機能の相同・差異を学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 F,Gを読む
第10回	大脳の解剖及び機能局在を学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 Jを読む
第11回	高次機能の記憶・言語に関して学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 Kを読む
第12回	大脳半球優位性、睡眠に関して学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 L-Nを読む
第13回	骨格筋収縮構造として神経筋運動単位、随意運動・筋緊張の機序を学ぶ。	予習・第10章 筋の収縮を読む
第14回	中枢神経系から運動の理解を深める。	予習・第10章 筋の収縮/運動を読む
第15回	予備日とし、理解の不十分な部分の質問を受け付ける。	復習・生理学で学んだことをまとめておく

■履修上の注意

出来る限り授業内に理解をして、分からないところはその場で解決すること。
授業内での質問・発言を奨励する。

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他 授業参加
成績配分: 筆記試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内に随時紹介する。

科目名	生理学実習			担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数	1
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・ 実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。(知識)
 ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。(技能)
 ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。(態度)

■授業の概要

生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解するために、実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行う。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習する。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/血圧測定の意義と方法について学ぶ。	第3章 循環
第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。	第3章 循環
第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。	第3章 循環
第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。	第3章 循環
第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。	第4章 呼吸
第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。	第4章 呼吸
第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。	第15章 代謝と体温
第8回	体組成測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。	第16章 運動生理
第9回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。	第2章 血液
第10回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。	第6章 腎臓と排泄
第11回	脳の機能について学ぶ。	第11章 神経系
第12回	エネルギー産生について学ぶ。消化器系のネットワークについて学ぶ。(合同実施)	第5章 消化と吸収
第13回	エネルギー消費について学ぶ。骨、筋肉、関節のネットワークについての基礎を学ぶ。(合同実施)	第10章 筋の収縮
第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。(合同実施)	第14章 感覚
第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。(合同実施)	第14章 感覚

■履修上の注意

実習は出席を前提とするため休まないこと。
 第1回～第11回まではPT OT 別々に実施する。
 第12回～第15回まではPT OT 合同で実施する。

■評価方法

■最終レポート ■各回の実習報告書
 成績配分: 最終レポート70% + 実習報告書30% 総合評価は最終レポートが60%以上であることが前提となる。

■教科書

医学書院 標準理学療法学・作業療法学 生理学第3版 石澤光郎他

■参考書

医学書院 図解生理学第2版 中野昭一他

科目名	運動学I			担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。
- ②重心の定義を理解し、重心線が通る指標を列挙できる。
- ③関節の形状分類を理解し、各関節がどれに該当するか述べるができる。
- ④運動時の筋収縮様態を答えることができる。
- ⑤上肢の運動の主動作筋を列挙することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体の仕組みについて興味を持ち、自らの体を使って各関節や体の動きを説明できることを目的とする。他教科との関連は、主に解剖学、生理学、力学が基盤となっているため、常に身体の構造を理解しながら運動学を学ぶ必要がある。また、これから学ぶ理学療法専門領域科目の基礎となり、特にこれから学ぶ運動生理学演習、体表解剖・触診演習・運動療法学と授業内容が深くつながっている。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、身体各部・各関節の名称について	身体の各関節について調べておくこと
第2回	姿勢、運動方向の名称・運動面・運動軸、人体における重心について	教科書P3～7、318を読んでおくこと
第3回	関節の構造と運動について	教科書P8～11、25～28を読んでおくこと
第4回	骨標本を使用し、関節の形状と分類、各関節の運動方向・参考可動域を確認する。	教科書P8～11、25～29を読んでおくこと
第5回	筋の構造と機能、筋の収縮のメカニズムについて	教科書P29～37を読んでおくこと
第6回	神経の構造と機能、反射運動と随意運動の違いについて	教科書P37～40を読んでおくこと。反射運動、随意運動について調べておくこと
第7回	上肢をより高く挙上するためには？	教科書P129～140を読んでおくこと
第8回	肩甲骨周囲の筋とその作用①	教科書P130～132、137を読んでおく
第9回	肩甲骨周囲の筋とその作用②	教科書P130～132、137、140を読んでおく
第10回	肩関節の筋とその作用①	教科書P129～140を読んでおくこと
第11回	肩関節の筋とその作用②	教科書P129～140を読んでおくこと
第12回	前腕を回内位・中間位・回外位にして肘関節を屈曲させた時に作用する筋は？	教科書P159～167を読んでおくこと
第13回	肘関節屈曲位で手掌を回す(回内・回外)時に作用する筋は？	教科書P159～167を読んでおくこと
第14回	手関節と手指の構造と運動特徴について	教科書P175～185を読んでおくこと
第15回	手のアーチと手の運動障害について	教科書P187～197を読んでおくこと

■履修上の注意

適宜プリントを用意するのでプリントを綴じるファイルを用意すること。
授業開始前に行う小テスト(前回講義の復習)で正答率60%未満の学生に対し補講を行う。

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験90%、レポート10% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト 藤縄理編 南江堂

■参考書

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 野村嶺編 医学書院
基礎運動学 第6版 中村隆一 医学書院

科目名	運動学Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	柴 ひとみ	単位数	2
対象学年	2年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①下肢帯・体幹・頭部の筋名、主な作用を列挙することができる。
- ②呼吸運動における胸郭の動きを説明することができる。
- ③姿勢を運動学的用語で表現することができる。
- ④歩行周期を説明することができる。
- ⑤歩行時の下肢関節の運動を説明することができる。

■授業の概要

授業を通し、理学療法士として治療の対象となる機能障害を把握するうえで必要な正常なヒトの体の仕組みについて興味を持ち、自らの体を使って各関節や体の動きを説明できることを目的とする。他教科との関連は、主に解剖学、生理学、力学が基盤となっているため、常に身体の構造を理解しながら運動学を学ぶ必要がある。また、これから学ぶ理学療法専門領域科目の基礎となり、特にこれから学ぶ運動生理学演習、体表解剖・触診演習・運動療法学と授業内容が深くつながっている。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、骨盤・股関節の運動について	教科書P199～208を読んでおくこと
第2回	股関節の屈曲・伸展に作用する筋とは？	教科書P208～210を読んでおくこと
第3回	股関節の内転・外転、内旋・外旋に作用する筋とは？	教科書P209～211を読んでおくこと
第4回	片脚立ちをした時の股関節に加わる力とは？	教科書P211～213を読んでおくこと
第5回	膝関節の滑り運動と転がり運動とは？	教科書P227～233を読んでおくこと
第6回	膝関節の屈曲・伸展に作用する筋とは？	教科書P234～236を読んでおくこと。
第7回	足関節と足部の運動について	教科書P247～259を読んでおくこと
第8回	足関節と足部の筋とその作用について	教科書P259～265を読んでおくこと
第9回	頭部と頸部の運動について	教科書P53～68を読んでおく
第10回	胸椎・腰椎の運動について	教科書P81～93を読んでおくこと
第11回	胸郭と呼吸運動について	教科書P107～115を読んでおくこと
第12回	姿勢の安定性とは？姿勢を構えと体位で表そう。	教科書P3～4、318～325を読んでおくこと
第13回	正常歩行の歩行周期と下肢の関節運動について	教科書P339～343を読んでおくこと
第14回	正常歩行時の重心の動きとは？歩行時の下肢の筋活動について	教科書P344～348を読んでおくこと
第15回	感覚と運動の関係、運動学習について	教科書P293～301を読んでおくこと

■履修上の注意

適宜プリントを用意するのでプリントを綴じるファイルを用意すること。
授業開始前に行う小テスト（前回講義の復習）で正答率60%未満の学生に対し補講を行うこと。

■評価方法

■筆記試験（論述 ■客観） レポート 口頭試験 実地試験 その他
評価配分：筆記試験100%

■教科書

シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト 藤縄理編 南江堂

■参考書

標準理学療法学・作業療法学 解剖学 野村嶺編 医学書院
基礎運動学 第6版 中村隆一 医学書院

科目名	人間発達学			担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数	1
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①発達の初段階と発達課題について説明することができる。
- ②ヒトの発達における各機能の発達について理解し、説明することができる。
- ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。
- ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。

■授業の概要

ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を正しく入力することでなされ、その上で様々な機能や行動を学習し成熟していく。すべての発達を通し、高齢期に満足した存在感を感じる事がこころの発達であるが、人生のゴールを目指す中で身体や精神的に障害を抱えていくこともある。リハビリテーションに携わるものとして対象者の目標を考える上でヒトの発達を理解することは重要であり、QOLの観点からも発達や年齢に応じた対応をすることが専門職として求められる能力である。本講義ではリハビリテーションの基礎となる発達について広く学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション:ヒトの成長と発達、発達を支える脳神経と感覚器について	教科書p20～30を読んでおく
第2回	胎児期から誕生、原始反射について	原始反射について調べておく
第3回	乳幼児期の発達:運動発達について	反射と反応について調べておく
第4回	乳幼児期の発達:認知、社会性の発達について	教科書p74～83を読んでおく
第5回	学童期の発達について	教科書p94～98を読んでおく
第6回	青年期の発達について	教科書p117～124を読んでおく
第7回	成人期～高齢期の発達とQOLについて	教科書p134～140を読んでおく
第8回	育ちを支える社会機構	教科書p145～169を読んでおく

■履修上の注意

講義の始めに小テストを実施する。小テストは評価の対象となるため休まないこと。

■評価方法

■筆記試験 (□論述 □客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 ■その他(小テスト)
成績配分:筆記試験70%、小テスト30% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

人間発達学 ヒトはどう育つのか 竹下研三著 中央法規

■参考書

基礎運動学 第6版 中村隆一他著 医歯薬出版株式会社

科目名	臨床心理学			担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①心理的支援の裏付けとなる人格理論を理解できる
- ②事例を通して、心理臨床の実際の場面を把握できる
- ③心理アセスメントの各方法について理解し、それらを分別できる
- ④多様な心理療法の特徴を把握し、国家試験に対応する知識を得る
- ⑤心理学的視点から、人の回復と成長、発達についての道すじを描ける

■授業の概要

国家試験関連科目であり、特に頻出する心理検査、人格理論、心理療法を中心に基本事項を学習する。臨床心理学は、どのように人の病や問題、回復、成長をとらえるかという、人への見方が基礎となっているため、学習を通して、人と心を捉える見方が深められることも講義のねらいとする。〈関連科目：心理学、人間発達学、精神医学他〉

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、臨床心理学とは	教科書第1章を予習しておくこと
第2回	人格理論と発達理論について(第Ⅲ部)フロイトの精神分析理論と発達理論、精神分析療法の基本	教科書92頁～97頁を予習しておくこと
第3回	ユングの分析心理学とタイプ論 個性化過程について	教科書98頁～99頁、149頁を予習
第4回	ロジャーズの自己理論とクライエント中心療法 フォーカシング	教科書100頁～101頁、148頁を予習
第5回	コフト、カーンバーグ、マラー、ウィニコットの各理論	教科書102頁～108頁を予習しておくこと
第6回	エリクソンのアイデンティティ論とアイデンティティ拡散およびライフストーリー論	教科書109頁～113頁を予習しておくこと
第7回	心理アセスメント 人格検査の種類について 質問紙法① 交流分析とエゴグラム	教科書127頁～129頁を予習しておくこと
第8回	人格検査 質問紙法 YG検査、MMPI、CMI、EPPS他	教科書127頁～129頁を予習しておくこと
第9回	人格検査 投影法、その他の検査 ロールシャッハ、TAT、PFスタディなど	教科書130頁～134頁を予習しておくこと
第10回	心理療法各論 遊戯療法と芸術療法	教科書149頁～153頁を予習しておくこと
第11回	行動療法と認知行動療法	教科書156頁～157頁を予習しておくこと
第12回	自律訓練法、臨床動作法など	教科書157頁～158頁を予習しておくこと
第13回	森田療法、内観療法、想定書簡法	教科書154頁を予習しておくこと
第14回	集団精神療法 心理劇とSST	教科書158頁～159頁を予習しておくこと
第15回	国家試験模擬試験	

■履修上の注意

国家試験に関連する内容を中心に講義する。授業で学習した内容が、実際の臨床現場ではどのように展開されるか、各自でさらに学習を進めて理解すること。適宜プリントも使用するので、各自でファイルすること。教科書第Ⅱ部の事例はあらかじめ各自で読んでおくこと。

■評価方法

■筆記試験(論述 ■客観) レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 評価配分:原則筆記試験100%、60%以上の得点であることが合格の前提となる。小テストは評価に含めないが、国家試験対策として重要である。

■教科書

人とかわかる臨床心理(第2版)(2006年)川瀬 正裕・松本 真理子・松本 英夫 著 ナカニシヤ出版

■参考書

科目名	一般臨床医学			担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

到達目標： その病気がなぜ起こり、体の中ではどのような異常が起こっているのか、そしてそれを解決するためには、どのような方法をとればよいのか、簡潔にかつ的確に述べられることを目標とする。

期待される学習効果： 過去に出題された、臨床医学に関連する国家試験問題が、自信を持って解答できるレベルに到達する。

■授業の概要

将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造(解剖)機能(生理)を学習し、ついでその破綻(病理)とその修復(治療)を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する、病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/医学とは?医学の歴史、医学の分類、医療の約束事(ルール)、生命の基本構造(細胞、組織、血液)	予習は不要。授業はじめに配布されるキーワード集を参照し、当日の授業をノートまたはカードに整理することが復習となる。これが重要である。そして、適宜配布される、授業範囲に該当する過去の国家試験問題を解くことで、自分の作成した、ノート、カードが適切なものであるか、検証してゆく。この繰り返し、4年後の国家試験の合格に直結する。この作業を怠る者は、小テスト、期末試験で合格点を取ることは不可能である。そして、神が味方して仮に進級できたとしても、4年後の国家試験の合格は、勝ち取れない。
第2回	生命維持のしくみ1:循環器(心臓、血管)	
第3回	生活習慣病1:動脈硬化のメカニズム(高血圧症、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群)	
第4回	生活習慣病2:動脈硬化の末路(脳血管障害)	
第5回	生活習慣病3:動脈硬化の末路(狭心症、心筋梗塞)	
第6回	生活習慣病4:生活習慣病のまとめ、小テスト①	
第7回	生命維持のしくみ2:呼吸器(口腔、鼻咽腔、気管、肺)	
第8回	呼吸器の障害:炎症、閉塞性肺疾患、閉塞性肺疾患、たばこの問題	
第9回	細胞の暴走=がん:がんとは?がんの問題点、がんの治療法	
第10回	生命維持のしくみ3:消化器(消化管、腹腔内臓器)	
第11回	消化器の障害:消化管の疾患、肝炎	
第12回	生命維持のしくみ4:生体防御、免疫	
第13回	感染症:微生物学の基礎知識、日和見感染症、MRSA、結核、性行為感染症、AIDS	
第14回	次世代につなぐ命1:生殖(妊娠、出産、不妊症)、小テスト②	
第15回	次世代につなぐ命2:臓器移植、幹細胞移植、ES細胞、iPS細胞	

■履修上の注意

予習、復習の欄に記載のごとく、授業後の復習が重要である。毎回の復習の積み重ねが、小テストの結果に反映され、それが重なって期末試験の結果となる。評価方法にあるごとく、小テストも成績評価の対象となり、その比重が大きい(40%)となるため、授業直後の復習が特に重要である事を強調しておく。期末試験直前の集中対策では、太刀打ちできない。なお小テストについては、欠席の場合は0点となるので、日頃の健康管理も重要となることに注意されたい。

■成績評価配分

■筆記試験(■論述 ■客観)

評価配分: 期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者も、不合格となる。

■教科書

広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。

■参考書

授業中に提示する

科目名	リハビリテーション医学		担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・実習		必修・選択	必修

■授業の到達目標・期待される学習効果

到達目標：第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられることを目標とする。

期待される学習効果：過去に出題された、臨床医学に関連する国家試験問題が、自信を持って解答できるレベルに到達する。

■授業の概要

2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的なところから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/総論1:リハビリテーション医学の歴史、理念、医学の中での位置付け、急性期、回復期、維持期、ADL評価	予習は不要。授業はじめに配布されるキーワード集を参照し、当日の授業内容をノート、カードに整理することが復習となる。これが重要である。そして、適宜配布される、授業範囲に該当する過去の国家試験問題を解き、自分の作成した、ノート、カードが適切なものであるか、検証してゆく。この繰り返しだが、4年後の国家試験の合格に直結する。この作業を怠る者は、小テスト、期末試験で合格点を取ることは不可能である。そして、神が味方して仮に進級できたとしても、4年後の国家試験の合格は勝ち取れない。
第2回	総論2:リハビリテーション医療経済(健康保険制度、介護保険制度、身体障害者手帳)	
第3回	総論3:廃用症候群(概念、病態、防止方法)	
第4回	運動器リハビリテーション1:骨折の病態、治癒機序、後療法(リハビリテーション)	
第5回	運動器リハビリテーション2:関節疾患(変形性関節症、関節リウマチ)の病態と治療	
第6回	運動器リハビリテーション3:痛みに対するリハビリテーション(腰痛、頸肩腕痛、CRPS)	
第7回	運動器リハビリテーション4:外傷、スポーツ障害、手術後のリハビリテーションの注意点と実際。	
第8回	脳神経リハビリテーション1:脳血管障害の病態、小テスト①	
第9回	脳神経リハビリテーション2:脳血管障害の急性期治療	
第10回	脳神経リハビリテーション3:脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション	
第11回	脳神経リハビリテーション4:頭部外傷の病態とリハビリテーション	
第12回	脳神経リハビリテーション5:高次脳機能障害の病態とリハビリテーション、摂食嚥下障害の病態とリハビリテーション	
第13回	脳神経リハビリテーション6:神経変性疾患の病態とそのリハビリテーション(パーキンソン病を中心に)、小テスト②	
第14回	内科領域のリハビリテーション1(呼吸器リハビリテーション、心臓リハビリテーション)	
第15回	内科領域のリハビリテーション2(生活習慣病に対するリハビリテーション)、精神科領域のリハビリテーション(うつ病の注意点)	

■履修上の注意

予習、復習の欄に記載のごとく、授業後の復習が重要である。毎回の復習の積み重ねが、小テストの結果に反映され、それが重なって期末試験の結果となる。評価方法にあるごとく、小テストも成績評価の対象となり、その比重が大きい(40%)となるため、授業直後の復習が特に重要である事を強調しておく。期末試験直前の集中対策では、太刀打ちできない。なお小テストについては、欠席の場合は0点となるので、日頃の健康管理も重要となることに注意されたい。

■成績評価配分

■筆記試験(■論述 ■客観)

評価配分:期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者も、不合格となる。

■教科書

最新リハビリテーション医学 米本 恭三 監修 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業中に提示する

科目名	リハビリテーション入門			担当教員 (単位認定者)	三浦 雅文	単位数	1
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

これから理学療法を学ぶに先だって、リハビリテーションという領域で触れる様々な専門的知識について概略を学ぶ。おもに国家試験で取り扱われる事がらを重点的に学習する。行動目標は予習・復習欄にあるキーワードについて素人言葉でもいいので、概要を説明できるようになることとする。

■授業の概要

ここで学んだことは今後各々の科目の中でより深く学習を進めることになる。1年前期なので基礎となる前段階の科目はないが、この単元は「理学療法概論」、「リハビリテーション医学」を中心に一年次の基礎科目のほとんどと関連を持った学習となる。それぞれの単元との関わりを考えながら学習を進めること。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション リハビリテーションとは	リハビリテーションの定義
第2回	病気と障害	ICIDH、ICF
第3回	人間活動と発達、ノーマライゼーション	発達、ライフサイクル、ノーマライゼーション
第4回	リハビリテーションと心理	防衛機制、障害受容
第5回	リハビリテーションの諸段階	医学的、職業、社会的リハビリテーション
第6回	リハビリテーションの過程	評価尺度、機能帰結、チームアプローチ
第7回	機能障害をもたらす疾病と外傷、先天異常および精神障害	機能障害、身体障害、精神障害
第8回	リハビリテーションを支える社会保障制度	介護保険法

■履修上の注意

あらゆる科目の基盤となる知識や考え方なので、十分な理解に努めること。国試で取り扱われる部分を中心に毎時間ごとに小テストを行う。この結果を予習復習に役立てること。

■評価方法

■筆記試験 (論述 ■ 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他
成績配分: 素点100%

■教科書

入門リハビリテーション概論 中村隆一 編 医歯薬出版

■参考書

リハビリテーション 砂原茂一 岩波新書

科目名	保健医療福祉論			担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数	1
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①社会福祉の理念と意義について理解し、説明できる。
- ②社会福祉分野の現状と課題について理解し、説明できる。
- ③コミュニケーションの技術を身につけ実務に役立てることができる。

■授業の概要

理学療法士・作業療法士として医療・福祉に携わるには、ソーシャルワーカーとしての役割も担っていくことになる。社会福祉の知識を身につけることにより、社会的な支援を必要とする方に対し、社会福祉の制度や各種サービスを活用いただくためのアドバイスが可能になり、また、社会福祉の目的や理念を理解することにより、「福祉の心」を身につけ、援助が必要な方に接するときの態度を養うことができる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・医療福祉を学ぶ目的を明確にする。	自己紹介にて自分のやりたいことを表明できるように
第2回	現代社会と社会福祉	予習問題(宿題)をやってくる
第3回	社会福祉の理念と意義	予習問題(宿題)をやってくる
第4回	社会福祉分野の現状と課題①障害者の福祉	予習問題(宿題)をやってくる
第5回	社会福祉分野の現状と課題②高齢者の福祉	予習問題(宿題)をやってくる
第6回	社会福祉分野の現状と課題③その他	予習問題(宿題)をやってくる
第7回	社会福祉の担い手と福祉社会への展望	予習問題(宿題)をやってくる
第8回	まとめ	

■履修上の注意

演習・グループ学習等を多く取り入れるので、積極的に参加すること。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分: 筆記試験70%、提出課題等30% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

使用しない

■参考書

よくわかる医療福祉(ミネルヴァ書房)
社会福祉基礎(実教出版)

科目名	公衆衛生学			(単位認定者)	大竹 一男	単位数	1
対象学年	1年	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択		選択

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①健康の概念、健康観の歴史の変遷、公衆衛生学の概念を説明できる。
- ②人口保健統計、健康指標を通じて我が国の疾病の現況について説明できる。
- ③集団における健康現象の解析法としての疫学的研究の考え方を説明できる。
- ④健康に及ぼす環境問題の変遷と現状について述べるができる。

■授業の概要

公衆衛生学では、地域社会活動を通して、環境を整備し、疾病を予防し、かつ健康の保持増進を図ることを学ぶ。本講義では、公衆衛生の意義と歴史を学び、ライフステージや職業上で生じる健康問題と疾病予防について、さらに衛生行政や地域保健についても学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/公衆衛生の意義及び地域保健と医療制度について学ぶ	第1章 第2章
第2回	国際保健及び疫学について学ぶ	第3章 第4章 第6章
第3回	疫学指標について学ぶ	第5章 第6章
第4回	保健統計資料の活用について学ぶ	第7章
第5回	母子保健について学ぶ	第9章
第6回	老人保健・福祉について学ぶ	第11章
第7回	精神保健福祉について学ぶ	第12章
第8回	健康づくり及び産業保健について学ぶ	第14章 第16章

■履修上の注意

復習をしっかりと行うこと。

■評価方法

■筆記試験 ■レポート

成績配分: 筆記試験80% + レポート20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

中外医学社 コメディカルのための専門基礎分野テキスト 公衆衛生学第2版 柳川 洋他

■参考書

授業時に配布するプリント

4) 專門科目

科目名	理学療法概論			担当教員 (単位認定者)	小島 俊文	単位数	2
対象学年	1年	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ・リハビリテーション医療における位置付けおよび理学療法発展の歴史について説明できる。
- ・理学療法士及び作業療法士法について説明できる。
- ・理学療法士の活動分野と概略について説明できる。
- ・理学療法の対象者と疾患について説明できる。
- ・理学療法の治療までの流れと理学療法の手段について説明できる。
- ・リハビリテーションチームと理学療法部門の管理について説明できる。

■授業の概要

理学療法に関して、歴史・法律・理学療法対象・理学療法手技・倫理・活動分野等、様々な観点より理学療法を捉えることにより、理学療法の概要について知る。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・理学療法の歴史と法律	理学療法とは何か、自ら可能な方法で調べる。授業中に発表をしてもらう。
第2回	リハビリテーションと理学療法	リハビリテーションとは何か、自ら可能な方法で調べ、授業中に発表をもらう。
第3回	理学療法の対象	ミニテストを行なうので、第1～2回講義内容を復習すること。
第4回	理学療法の方法	ミニテスト(第3回講義分)実施予定。
第5回	リハビリテーションチームと理学療法部門	ミニテスト(第4回講義分)実施予定。
第6回	理学療法士の活動分野	ミニテスト(第5回講義分)実施予定。
第7回	医療事故	ミニテスト(第6回講義分)実施予定。
第8回	医療保険法・介護保険法・障害者自立支援法	中間のまとめテストを実施予定。第1～7回までの復習をしてもらうこと。
第9回	ICFとICIDH	ミニテスト(第8回講義分)実施予定。
第10回	理学療法と評価	ミニテスト(第9回講義分)実施予定。
第11回	運動療法と運動療法機器	ミニテスト(第10回講義分)実施予定。
第12回	物理療法と物理療法機器	ミニテスト(第11回講義分)実施予定。
第13回	義肢と装具	ミニテスト(第12回講義分)実施予定。
第14回	日常生活活動と理学療法	ミニテスト(第13回講義分)実施予定。
第15回	ヒポクラテスの誓いから現代まで	最終のまとめテストを実施予定。第8～15回までの復習をしてもらうこと。

■履修上の注意

授業を受けるにあたっては、必ず予習・復習を行っていただくこと。
また、受け身ではなく積極的に授業に臨むこと。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
成績配分: 筆記試験100%

■教科書

特に設けない。

■参考書

理学療法学テキストI「理学療法学概論」第3版 監修: 千住秀明

理学療法専攻

2年次以降授業計画概論

科目名	基礎演習Ⅱ	単位数	1	2年通年	必修
■授業の概要					
基礎演習Ⅰに引き続いて、建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決の力を養う。マナー・一般常識・環境美化・ボランティアといった自律的実践能力を身につける。人生観や職業観を深め、専門演習への円滑な移行を図る。					

科目名	ボランティア活動Ⅱ	単位数	1	2年通年	必修
■授業の概要					
ボランティア活動Ⅱを通じて、各種現場実習を行うにあたっての基本となる知識・技術を習得する。「ボランティア活動Ⅰ」で学び身につけた知識やコミュニケーション能力や技術をさらに向上させる。特に、建学の精神である『仁』に基づき、医療福祉に携わることへの「心構え」、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。					

科目名	国家試験対策Ⅱ	単位数		2年通年	必修
■授業の概要					
これまでに履修した科目に対する国家試験問題に取り組む。					

科目名	体表解剖・触診演習	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
体表解剖実習：人体を体表より触察し、主要な骨・筋・神経について、場所・形態・大きさ・作用を確認し、体表から触知できうる皮下の構造物を実際に触察できる能力を身につける。					

科目名	運動生理学演習	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
今授業では実習を通して生体の仕組みを深く理解することが目的となる。特に呼吸・循環系に対し、様々な刺激を与えることにより、生体の特異的反応を引き出し、その機序を理解することにある。そして理学療法の治療場面における対象者への刺激入力と反応の関係を理解する。					

科目名	臨床運動学演習	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
この講義の目的は人間の動作や運動に関わる人体の解剖学的構造と生理学的機能、生体力学的変数と臨床上の問題との関係を理解するものである。					

科目名	病理学概論	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学ぶ。特に将来理学療法士として必要となる病理学関連の用語を理解し、基本的な疾患の病態について学ぶ。					

科目名	内科・老年医学Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
内科学に関する基本的な症候を学ぶと共に、加齢と老化に伴って生じる身体の変化について学んでいく。					

科目名	内科・老年医学Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
各器官の疾患に関する基本的な知識を学ぶと共に、高齢者に特徴的な症候と疾患について学ぶ。特に、リハビリテーションに関連する疾患についてを重点的に学習する。					

科目名	整形外科Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
運動器の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科的手技だけではなく保存的治療も重要である。理学療法はその保存的治療で重要な役割を担う。骨関節疾患を中心に基本的事項を学ぶ。					

科目名	整形外科Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
筋、神経の損料、スポーツ外傷、切断、手の外科など、リハビリテーションに関連する様々な整形外科的な疾患について学ぶ。					

科目名	神経内科学Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
神経・筋疾患は、リハビリテーションの主要な対象疾患であり、疾患に対する正しい理解が必須である。神経筋疾患の患者に対する理学療法を学ぶ上での基礎となる学問である。					

科目名	神経内科学Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
リハビリテーションの対象となる頻度が高い、神経筋疾患について、各疾患の基本的症候や評価などについて学ぶ。					

科目名	精神医学	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
精神疾患に関する基本的な知識を身につけ、それぞれの疾患における特徴的な事項とその治療などについて学ぶ。					

科目名	小児科学	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
小児の発育と発達について学ぶと共に、小児期の感染症について学ぶ。また、理学療法の対象となることが多い、知的障害、肢体不自由の原因疾患についても基本的な事項を学ぶ。					

科目名	理学療法評価学Ⅰ	単位数	2	2年前期	必修
■授業の概要					
安全で効果的な理学療法を行うには知識だけでなく、問題解決能力と正確な技術を身につけている必要がある。理学療法を学ぶ上で必要な基本的な検査・測定技術を学ぶ。					

科目名	理学療法評価学Ⅱ	単位数	2	2年後期	必修
■授業の概要					
等速性筋力測定、筋電図の利用、重心動揺計といった、臨床や研究で用いられる機器を使った評価について学ぶ。その機器の特性、使用方法、適応、禁忌について学び、実際に機器を用いて実践練習する。					

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
評価法実習では評価法と時間を共有し、1つの評価法について理論から実技のデモンストレーション、実技練習、フィードバック、評価結果の精度の検証などを一連の流れで進めていく。					

科目名	理学療法評価学実習Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
主にケースを設定するなど演習を行う。設定した疾患の特徴、ケースの背景・症状などから必要な評価項目の選定、実施上の留意点・禁忌事項の確認、手技の実施、結果の統合と解釈、問題点抽出までを模倣的に行う。OSCEに向けた実践演習の場である。					

科目名	運動療法学Ⅰ	単位数	2	2年前期	必修
■授業の概要					
運動療法の概念や理論的背景を学ぶ。内容は可動域改善練習、筋力強化、ファシリテーションテクニック、ストレッチといったどの疾患や障害にも共通して行われるような基本的な療法についてで、その考え方や適応、禁忌を学び、実習の講義と時間を共有し手技のデモンストレーションとそれを参考にした実技練習までを一連の流れで学ぶ。被検者として自分が実際に体験することで患者様がどのように感じるのか疑似体験する。					

科目名	運動療法学Ⅱ	単位数	2	2年後期	必修
■授業の概要					
運動療法Ⅰで学んだ基本的な知識・技術を疾患にあてはめて、疾患ごとの標準的な方法、注意・禁忌事項を演習を交えながら学んでいく。中枢神経系、神経筋疾患、骨関節疾患、呼吸・循環器疾患、代謝疾患、熱傷、切断、老人、小児といった領域ごとに運動療法のポイントを学んでいく。					

科目名	運動療法学実習Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
運動療法学実習では運動療法学と時間を共有し、基本的な治療技術の理論・根拠、手技のデモンストレーション、実技練習、フィードバックといった学習を十分に時間をとりながら、一連の流れで学習を進めていきたい。					

科目名	運動療法学実習Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
運動療法学実習では運動療法学と時間を共有し、基本的な治療技術の理論・根拠、手技のデモンストレーション、実技練習、フィードバックといった学習を十分に時間をとりながら、一連の流れで学習を進めていきたい。					

科目名	物理療法学	単位数	2	2年後期	必修
■授業の概要					
温熱療法、電気療法といった物理療法について、その理論的背景や効果、用法、適応、禁忌などの基本事項を学ぶ。理学療法介入として物理療法を単独で用いるのはナンセンスである。ゴール獲得のための効果的な物理療法の利用と、さらにどのように運動療法や様々な治療手技と併用していくのか学んでいく。					

科目名	物理療法学実習	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
物理療法学で学ぶ知識を実習のなかで確認し、身につけていく。たとえば温熱効果はどれくらいの温度がどれくらいの時間持続するのか、実験によって確認することによって治療として効果的なセッティングを学んでいく。さらに物理療法介入の結果がその後の運動療法にどのような有益な影響をもたらすのか実践で確認していく。					

科目名	義肢装具学	単位数	2	2年後期	必修
■授業の概要					
装具の種類、適応、用法、禁忌などをこれまで学習した傷病と照らし合わせながら学んでいく。フィッティングの確認方法やよく起こりやすいトラブルなどについても把握する。切断の断端管理、ソケットの構造や制作方法、懸垂方法、継手の種類・適応、義足着用時の動作分析などを学ぶ。さらに装具・義足ともにセラピストが調整可能な部位を把握し、どのような場合にどのように調整できるのか実技を通して学んでいく。					

科目名	専門演習Ⅰ	単位数	1	3年通年	必修
■授業の概要					
基礎演習によって培った各種スキルを基に、各種臨床実習において必要とされる社会的スキルを身につける。また、就職に向けた準備を行なう。					

科目名	国家試験対策Ⅲ	単位数		3年通年	必修
■授業の概要					
これまでに履修した科目に対する国家試験問題に取り組む。					

科目名	作業療法セミナーⅠ	単位数	1	3年通年	必修
■授業の概要					
臨床実習前後におけるゼミ形式の授業となる。臨床実習の目的に対し、事前の準備から始まり、実習終了後の症例報告も含め行うことが目的となる。					

科目名	運動療法学Ⅲ	単位数	2	3年前期	必修
■授業の概要					
理学療法評価の結果から統合と解釈がなされ、プログラムが立案される。この講義では一人の対象者に介入していく過程の中でとくにプログラム立案、実行、効果判定、再考察といった流れを、多くの具体例を通して学び、出来るだけ多くの演習に挑戦して学んでいく。					

科目名	運動療法学実習Ⅲ	単位数	1	3年前期	必修
■授業の概要					
運動療法学実習では運動療法学と時間を共有し、基本的な治療技術の理論・根拠、手技のデモンストレーション、実技練習、フィードバックといった学習を十分に時間をとりながら、一連の流れで学習を進めていきたい。					

科目名	義肢装具学実習	単位数	1	3年前期	必修
■授業の概要					
「義肢装具学」で学んだ事を実際の装具・義足などを扱いながら実習していく。簡単なスプリント・装具などの作成を実体験する。					

科目名	理学療法技術論Ⅰ	単位数	2	3年前期	必修
■授業の概要					
技術論では運動療法で学んだ基本的な理学療法介入の知識や技術を基にそれを発展させた、さまざまなテクニックについて学んでいく。技術論Ⅰでは神経筋促通手技(PNF)について学ぶ。					

科目名	理学療法技術論Ⅱ	単位数	2	3年前期	必修
■授業の概要					
技術論では運動療法で学んだ基本的な理学療法介入の知識や技術を基にそれを発展させた、さまざまなテクニックについて学んでいく。技術論Ⅱでは、マニュアルセラピー、クリニカルリーズニング、テーピング、足底板療法といった技術を理論・コンセプト、適応、禁忌を学び、デモンストレーションを参考に実技練習する。					

科目名	理学療法技術論Ⅲ	単位数	2	3年後期	必修
■授業の概要					
技術論では運動療法で学んだ基本的な理学療法介入の知識や技術を基にそれを発展させた、さまざまなテクニックについて学んでいく。技術論Ⅲでは、ボバースコンセプト、認知運動療法、さらに呼吸理学療法、循環器系理学療法、代謝系、小児リハビリテーションといった技術を学んでいく。					

科目名	理学療法技術論実習Ⅰ	単位数	1	3年前期	必修
■授業の概要					
技術論実習では技術論と時間を共有し、テクニックの理論・根拠、手技のデモンストレーション、実技練習、フィードバックといった学習を十分に時間をとりながら、一連の流れで学習を進めていきたい。					

科目名	理学療法技術論実習Ⅱ	単位数	1	3年前期	必修
■授業の概要					
技術論実習では技術論と時間を共有し、テクニックの理論・根拠、手技のデモンストレーション、実技練習、フィードバックといった学習を十分に時間をとりながら、一連の流れで学習を進めていきたい。					

科目名	理学療法技術論実習Ⅲ	単位数	1	3年後期	必修
■授業の概要					
技術論実習では技術論と時間を共有し、テクニックの理論・根拠、手技のデモンストレーション、実技練習、フィードバックといった学習を十分に時間をとりながら、一連の流れで学習を進めていきたい。					

科目名	地域理学療法学Ⅰ	単位数	2	3年前期	必修
■授業の概要					
地域リハビリテーションの概念、思想、実践方法について総括的に述べる。特に地域リハビリテーションの重要性、今日的課題、関連が深い介護の意義と制度、障害者・高齢者への支援体制の在り方と問題点を説明する。					

科目名	地域理学療法学Ⅱ	単位数	2	3年前期	必修
■授業の概要					
地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していく上で地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中で医療専門職が担っていくに必要な知識と考え方、チーム医療の重要性を理解し、自ら実践する基本を学習する。実際に地域リハビリテーションの現場に触れることで理解を深めていく。					

科目名	地域理学療法学Ⅲ	単位数	2	3年後期	必修
■授業の概要					
維持期リハビリテーションの理解を深め、体験学習を通して理学療法士の役割、連携する他職種の役割や対象者について学ぶ。また、体験学習の中で理学療法評価の実技を行う。					

科目名	臨床実習指導Ⅰ	単位数	2	3年後期	必修
■授業の概要					
控えている評価実習に向けてこれまで学んできたことを統合し、一つのケースについて情報収集、評価計画立案、評価の実行、結果整理・記載・報告、統合と解釈、問題点抽出といった一連の流れを演習する。可能な限り多種多様な症例を想定して学んでいけるようにする。その中では対象者に対する自己紹介、これから何をするのかの説明、評価実行中は対象者の不快や不安を考慮しながらの適切な言葉使い、表情、態度がとれるように練習していく。これらは最終的には履修済み範囲に限定した客観的臨床能力試験(OSCE)で試され、その結果が実習に挑むに十分なレベルに達しているかを判断する材料となる。					

科目名	評価実習	単位数	4	3年後期	必修
■授業の概要					
これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実践する。病院という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実践する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。					

科目名	専門演習Ⅱ	単位数	1	4年通年	必修
■授業の概要					
建学の精神に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を養成する。また、礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通し身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神を持つ自立した社会人としてのスキルアップを図る。また、国家試験や就職に向けての対策を行う。					

科目名	理学療法セミナーⅡ	単位数	1	4年前期	必修
■授業の概要					
臨床実習前後におけるゼミ形式の授業となる。臨床実習の目的に対し、事前の準備から始まり、実習終了後の症例報告も含め行うことが目的となる。					

科目名	臨床実習指導Ⅱ	単位数	2	4年前期	必修
■授業の概要					
控えている総合臨床実習に向けてこれまで学んできたことを統合し、一つのケースについて情報収集、評価計画立案、評価の実行、結果整理・記載・報告、統合と解釈、問題点抽出、治療プログラム立案、治療効果判定、再考察といった一連の流れを演習する。可能な限り多種多様な症例を想定して学んでいけるようにする。その中では対象者に対する自己紹介、これから何をするのかの説明、評価実行中は対象者の不快や不安を考慮しながらの適切な言葉使い、表情、態度がとれるように練習していく。これらは最終的に客観的臨床能力試験(OSCE)で試され、臨床における態度、責任能力、知識、思考、技術などがひとりの患者様を担当するに十分なレベルに達しているかを判断する材料となる。また、実習を終えた時点で4年間の学習理解度を図る試験を実施する。					

科目名	総合臨床実習Ⅰ	単位数	8	4年前期	必修
■授業の概要					
評価実習をさらに深め、病院や施設の中での理学療法士の役割、患者様とのかかわりの中で理学療法士は何ができるのかを考える。実践はクリニカルクラークシップ、評価実践に留まらず、問題点から治療介入戦略まで立案し、実際に行う。模擬患者ではなく実際の患者様に介入を行うことで机上では語れない難しさや留意点について実感する。治療の効果判定とフィードバックを行い、次の介入戦略へと進めていく思考過程を実践する。客観的な効果判定とはどんなものか考える。					

科目名	総合臨床実習Ⅱ	単位数	8	4年後期	必修
■授業の概要					
評価実習をさらに深め、病院や施設の中での理学療法士の役割、患者様とのかかわりの中で理学療法士は何ができるのかを考える。実践はクリニカルクラークシップ、評価実践に留まらず、問題点から治療介入戦略まで立案し、実際に行う。模擬患者ではなく実際の患者様に介入を行うことで机上では語れない難しさや留意点について実感する。治療の効果判定とフィードバックを行い、次の介入戦略へと進めていく思考過程を実践する。客観的な効果判定とはどんなものか考える。					

科目名	卒業研究	単位数	2	4年前期	必修
■授業の概要					
テーマを設定し研究論文を作成する。					

作業療法専攻

1年次授業計画（シラバス）

1) 特別科目

科目名	国家試験対策Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	各専攻教員	単位数	-
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

国家試験の問題形式に慣れ、1年前期科目の知識を定着させることを目標とする。

■授業の概要

1年前期に修得した国家試験指定科目について、実際の国家試験問題に触れることにより、知識の定着及び国家試験への対策方法を習得することを目的とする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第2回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第3回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第4回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第5回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第6回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第7回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第8回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第9回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第10回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第11回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第12回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第13回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第14回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。
第15回	国家試験問題演習	分からなかったことは必ず理解できるまで復習すること。

■履修上の注意

必ず復習を行い、理解を確実なものとする。

■評価方法

--

■教科書

配布資料

■参考書

各国家試験対策本

2) 基礎科目

科目名	人間哲学			担当教員 (単位認定者)	鈴木 利定	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

--

■授業の概要

「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自らとうてみる学問をねらいとしている。孔子は人間にいかんかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。	
第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。	
第3回	教育論。礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。	
第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを釈く。民を新に釈く。(右伝の三章、右伝の二章)	
第5回	至善に止まるを釈く。本末を釈く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章)	
第6回	家を斉へて国を治むるを釈く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)	
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)	
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章)	
第9回	国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子路に示す。(右第十、十一章)	
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章)	
第11回	よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章)	
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。	
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。	
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。	
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。	

■履修上の注意

成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(二回以上の者)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 評価配分:成績評価は、筆記試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績評価としては十分な評価を与える。

■教科書

衆妙の門 鈴木 利定 中央法規出版
 儒教のころ 鈴木 利定 中央法規出版
 咸有一徳

■参考書

--

科目名	医療英語 I			担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①英語でコミュニケーションをとる自信を付けることができる。
 ②理学療法士、作業療法士の現場で必要となる語彙やフレーズを身につけることができる。

■授業の概要

日常会話に必要な英語の基礎力を養い、それとともに実践的な会話練習で医療用の語彙やフレーズを身につけていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/自己紹介、レッスン内容の説明、'getting to know you' 活動、クラスルームイングリッシュ。	教科書P6+7を読んでおく
第2回	患者の個人情報を尋ね、フォームに書き込めるようにする。①	教科書P8+9を読んでおく
第3回	患者の個人情報を尋ね、フォームに書き込めるようにする。② 数字、時間、日付を学ぶ。	
第4回	患者の個人情報を尋ね、フォームに書き込めるようにする。③ 1日のスケジュールを学ぶ。	教科書P30+31を読んでおく
第5回	患者との日常会話。① 家族について学ぶ。	教科書P12～14を読んでおく
第6回	患者との日常会話。② 天気、場所の行き方について学ぶ。	教科書P55、P18～20を読んでおく
第7回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内の案内、病院内で使われる会話を学ぶ。①	教科書P21+22、P106を読んでおく
第8回	病院、リハビリテーション科に関する語彙を学ぶ。病院内の案内、病院内で使われる会話を学ぶ。②	
第9回	今までの復習。	今までの勉強を読んで復習しておく。
第10回	小テスト	今までの勉強を読んで復習しておく。
第11回	身体部位、身体の動きに関する英語、患者に尋ねる時の英語について学ぶ。リハビリテーションに関する会話について学ぶ。①	
第12回	身体部位、身体の動きに関する英語、患者に尋ねる時の英語について学ぶ。リハビリテーションに関する会話について学ぶ。②	
第13回	身体部位、身体の動きに関する英語、患者に尋ねる時の英語について学ぶ。リハビリテーションに関する会話について学ぶ。③	
第14回	第11回～13回までの復習。	第11回～13回までの勉強を読んで復習しておく。
第15回	小テスト	第11回～13回までの勉強を読んで復習しておく。

■履修上の注意

毎回の聞きとり訓練とペアワークは英語を使う貴重な機会である。照れないでしっかり声を出して、英語の表現を口や耳で覚えること。

■評価方法

- 筆記試験 (■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 評価配分: 期末試験 100%

■教科書

NEW ENGLISH UPGRADE ① Steven Gershon and Chris Mares MACMILLAN

■参考書

--

科目名	医療英語 II			担当教員 (単位認定者)	デイビス ウォーレン	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①英語でコミュニケーションをとる自信を付けることができる。
 ②理学療法士、作業療法士の現場で必要となる語彙やフレーズを身につけることができる。
 ③エッセイの内容を学ぶことができる

■授業の概要

日常会話に必要な英語の基礎力、応用力を養い、それとともに実践的な会話練習で医療用の語彙やフレーズを身につけていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/患者との日常会話に必要な英語。①	教科書P40+41を読んでおく
第2回	患者との日常会話に必要な英語。②	教科書P42+44を読んでおく
第3回	患者との日常会話に必要な英語。③	教科書P58+59を読んでおく
第4回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話。①	
第5回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話。②	
第6回	病院、リハビリテーションに関する語彙、会話。③	
第7回	今までの復習。	今までの勉強を読んで復習しておく。
第8回	小テスト	今までの勉強を読んで復習しておく。
第9回	簡単な長文を理解できるようにする。表やグラフの読みとり方、%や分数の頻度を表す英語を学ぶ。①	
第10回	簡単な長文を理解できるようにする。表やグラフの読みとり方、%や分数の頻度を表す英語を学ぶ。②	
第11回	簡単な長文を理解できるようにする。表やグラフの読み取り方、%や分数の頻度を表す英語を学ぶ。③	
第12回	第9回～11回までの復習	第9回～11回までの勉強を読んで復習してくる。
第13回	小テスト	第9回～11回までの勉強を読んで復習してくる。
第14回	日常会話。未来、計画 (be going to)。①	教科書P64+65を読んでおく
第15回	日常会話。未来、計画 (be going to)。② まとめ	教科書P66+67を読んでおく。

■履修上の注意

毎回の聞きとり訓練とペアワークは英語を使う貴重な機会である。照れないでしっかり声を出して、英語の表現を口や耳で覚えること。

■評価方法

■筆記試験 (■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 評価配分：期末試験 100%

■教科書

NEW ENGLISH UPGRADE ① Steven Gershon and Chris Mares MACMILLAN

■参考書

--

科目名	法学			担当教員 (単位認定者)	森田 隆夫	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①六法で条文を調べることができる。
- ②法学概論につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ③憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ④民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。
- ⑤法を解釈するという思考方法をとることができる。

■授業の概要

社会福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となる。そこで、社会福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習を行なう。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行く。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/法学概論1(市民生活と社会規範)	教科書の1～8頁を読むこと
第2回	法学概論2(市民生活の各領域と主な関係法 以下)	教科書の9～20頁を読むこと
第3回	憲法1(総論、基本的人権総論(私人間効力あたりまで))	教科書の21～32頁を読むこと
第4回	憲法2(基本的人権総論(13条、14条)、精神的自由)	教科書の33～39頁を読むこと
第5回	憲法3(経済的自由、社会権)	教科書の40～45頁を読むこと
第6回	憲法4(上記以外の人権、国会、内閣)	教科書の46～58頁を読むこと
第7回	憲法5(裁判所、財政、地方自治)	教科書の59～70頁を読むこと
第8回	民法1(総則)	教科書の71～82頁を読むこと
第9回	民法2(物件)	教科書の83～94頁を読むこと
第10回	民法3(契約1)	教科書の95～108頁を読むこと
第11回	民法4(契約2、債権1)	教科書の109～117頁を読むこと
第12回	民法5(債権2)	教科書の118～128頁を読むこと
第13回	民法6(親族)	教科書の129～160頁を読むこと
第14回	民法7(相続)	教科書の161～180頁を読むこと
第15回	まとめ	ノート等を見直すこと

■履修上の注意

教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要である。
また、別掲の参考書での学習も勧める。
※社会福祉主事任用資格取得選択科目

■評価方法

■筆記試験(論述 ■客観) レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分: 筆記試験 100%

■教科書

宇山勝儀・森長秀 編著「社会福祉を志す人のための法学」光生館, 2011年
有斐閣「ポケット六法」

■参考書

授業中に随時紹介する

科目名	心理学			担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①発達という観点から人を縦断的にとらえられるようになる
- ②学習理論を理解し、人の行動と記憶の基本的メカニズムを理解できる
- ③感覚や知覚の仕組みや特徴を理解できる
- ④思考と言語の発達や特徴を理解できる
- ⑤防衛機制という観点から人の行動やパーソナリティをとらえることができる
- ⑥知能と知能を調べる方法を理解できる
- ⑦パーソナリティを調べる方法を理解できる

■授業の概要

心を対象としたこれまでの研究成果から、人を理解する上で基本となる、発達、学習、記憶、思考、言語、知能、動機、防衛、パーソナリティなどについて、幅広く学んでいく。国家試験関連科目である臨床心理学の基礎となる科目であり、その他の関連科目とも連動する内容となっているので、積極的に学習すること。〈関連科目：臨床心理学、人間発達学、精神医学他〉

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 10章心理学の歴史：心理学史を振り返りながら、心をめぐる考え方の変遷を追いながら、心についての多様な見方を理解する。	教科書10章を予習すること
第2回	発達：遺伝と環境 環境と遺伝、レディネスなど	教科書第3章を予習すること
第3回	エリクソンの発達の漸成理論(8段階説)とアイデンティティ論 アイデンティティ・ゲーム 3歳と10歳の自我の発達など	教科書257頁～258頁を予習すること
第4回	学習 古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論について	教科書第4章65頁～80頁を予習すること
第5回	記憶 記憶のネットワーク理論、記憶の種類	教科書81頁～92頁を予習すること
第6回	記憶の障害 健忘など	教科書93頁～100頁を予習すること
第7回	感覚・知覚 感覚の種類 視知覚について	教科書101頁～118頁を予習すること
第8回	錯視・錯覚・形・奥行き知覚、ゲシュタルト要因など	教科書119頁～141頁を予習すること
第9回	聴知覚 触覚 体性感覚について	教科書151頁～165頁を予習すること
第10回	思考・言語 ピアジェの認知発達段階説	教科書167頁～181頁を予習すること
第11回	非言語的・言語的コミュニケーション	教科書189頁～203頁を予習すること
第12回	動機づけと防衛機制	教科書228頁～236頁を予習すること
第13回	個人差 知能モデルと知能検査	教科書239頁～247頁を予習すること
第14回	パーソナリティ理論とパーソナリティ検査①	教科書248頁～255頁を予習すること
第15回	パーソナリティ検査②	教科書248頁～255頁を予習すること

■履修上の注意

国家試験に関連する内容を中心に講義を行う。授業で学習した内容が、実際の臨床現場ではどのように展開されるかを、各自でさらに調べながら理解を深めていくこと。教科書はすべてを扱うことができないが、熟読すれば、他の教科の理解にもつながるので、全部読了すること。

■評価方法

■筆記試験(論述 ■客観) レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 評価配分：原則筆記試験100%、60%以上の得点であることが合格の前提となる。
 小テストは評価に含めないが、国家試験対策として重要である。

■教科書

心理学(第4版)(2011) 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編著 東京大学出版会

■参考書

--

科目名	物理学			担当教員 (単位認定者)	栗原 秀司	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①運動の表し方を知り、式やグラフで運動を表すことができる。
 ②力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用してヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。
 ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し、説明できる。
 ④医療で実際に起こりうる事象、使用する器具類に応用されている物理学を知り、説明できる。

■授業の概要

この授業では物理学の基本的なことを理解し、実際に物理学がヒトの体や医療の現場、医療機器について応用されている例を知り、興味・関心をもって自ら応用していけるようになることを目的とする。「運動学」の基礎となり、医療現場で使用する機器の原理を理解する基礎にもなっている。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/(1) はじめに ①数値の扱い ②単位 ③ベクトル	教科書p23～24、p11～13、p15
第2回	(2) 力学の世界 ①位置・速度・加速度	教科書p2～11
第3回	" ②力と運動	教科書p19～23、p25～28
第4回	" "	教科書p29～39
第5回	" ③円運動と単振動	教科書p39～45
第6回	" ④運動量と衝突	教科書p45～51
第7回	" ⑤仕事量とエネルギー	教科書p51～61
第8回	" ⑥つり合いと変形	教科書p61～67
第9回	" "	"
第10回	(3) 熱の世界	教科書p70～76
第11回	(4) 流体の世界	教科書p78～89
第12回	(5) 波と光と音の世界	教科書p92～108
第13回	(6) 電気と磁気の世界 ①電荷・電場・電流	教科書p110～125
第14回	" ②磁荷と磁場 ③交流	教科書p125～134
第15回	(7) 放射線と微視の世界 まとめ	教科書p136～148

■履修上の注意

高校で物理を履修していなくても良いが、物理学ではものの考え方を学ぶので、一つ一つ自分の頭で納得するまで考えることが必要である。
 また、物理学は積み重ねで成り立っているため、わからないことがあるとその先も理解できなくなる。わからないことがあったらそのままにせず、授業中か終了後または次の時間の最初に必ず質問して理解するようにすること。

■評価方法

■筆記試験 (□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 成績配分: 筆記試験100%

■教科書

看護・医療技術者のための たのしい物理 中野正博著 日本理工出版会

■参考書

看護にいかす物理学 前田昌信著 医学書院

科目名	情報処理			担当教員 (単位認定者)	藤本 壱	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①パソコンの基本的な操作を理解する。
 ②Microsoft Wordでレポート等の文書を作成できる。
 ③Microsoft Excelで表やグラフをまとめることができる。

■授業の概要

授業を通しパソコンの基本的な使い方をマスターし、WordとExcelを使って各種の文書を作成することができるようにすることを目標とする。他の科目でレポート課題等の文書を作成する際にWordとExcelを使う機会は多いので、他の科目との関わりも多くある。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/(概論) オリエンテーションと初めてのパソコン操作	教科書 2～18ページ
第2回	(概論) インターネットの利用とセキュリティ	資料を別途配布
第3回	(Word) キーボードの操作と日本語等の入力	教科書 20～33ページ
第4回	(Word) 文章の入力と保存・印刷	教科書 34～47ページ
第5回	(Word) 各種の書式設定	教科書 50～58ページ
第6回	(Word) 表を含む文章の作成	教科書 62～71ページ
第7回	(Word) 図や写真を含む文書の作成	教科書 72～89ページ
第8回	(Excel) Excelの基本操作	教科書 92～103 ページ
第9回	(Excel) 表の作成	教科書 104～127ページ
第10回	(Excel) 表の書式設定や各種機能	資料を別途配布
第11回	(Excel) グラフの作成	教科書 129～145ページ
第12回	(Excel) 関数の基本	教科書 148～177、205～209 ページ
第13回	(Word・Excel) WordとExcelの連携	資料を別途配布
第14回	レポート作成実習	
第15回	レポート作成実習	

■履修上の注意

なるべく休まないこと
 USBメモリを用意すること

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) ■レポート 口頭試験 実地試験 その他
 成績配分レポート100%

■教科書

パソコン教科書 Word/Excel/Power Point2007 Windows Vista対応 Officew塾著 東京法令出版

■参考書

なし

科目名	基礎演習 I			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	1
対象学年	1年通年	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決能力を養う。

■授業の概要

建学の精神を理解し、自律的実践的能力を身につける。また、人生観や職業観を深め、2学年以降への円滑な移行が図れるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	前期オリエンテーション/学長講話及び基礎演習について。	咸有一徳
第2回	建学の精神について・中田教授講話 / 話し合い	レポート 咸有一徳
第3回	親睦体育大会準備	
第4回	環境美化活動について / 話し合い → 発表	レポート 咸有一徳
第5回	図書館利用指導	
第6回	日常生活指導①、読書指導①	咸有一徳
第7回	レポートの書き方	
第8回	発表の仕方	
第9回	租税教室	
第10回	七夕祭り準備	
第11回	七夕祭り準備	
第12回	七夕祭り準備	
第13回	七夕祭り反省 → 発表	レポート
第14回	一般常識テスト(学研)	
第15回	前期のまとめ	レポート

■履修上の注意

基礎演習はボランティア活動、環境美化活動と合わせ、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。また、学外での活動や学外講師の講話については授業時間を変更して実施することもあり得るので留意されたい。

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) ■レポート 口頭試験 実地試験 その他
成績配分: 授業提出レポート100%

■教科書

鈴木利定、中田勝: 咸有一徳・中央法規

■参考書

科目名	基礎演習Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	各クラス担任	単位数	1
対象学年	1年通年	授業方法	講義・(演習)・実習		必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決能力を養う。

■授業の概要

建学の精神を理解し、自律的実践的能力を身につける。また、人生観や職業観を深め、2学年以降への円滑な移行が図れるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期オリエンテーション/日常生活指導②(環境美化指導含む)、読書指導②	咸有一徳
第17回	建学の精神について…中田教授講話 / 話し合い	レポート 咸有一徳
第18回	昌賢祭準備	
第19回	昌賢祭準備	
第20回	昌賢祭準備	
第21回	昌賢祭準備	
第22回	昌賢祭反省 → 発表	レポート
第23回	就職ガイダンス…社会人基礎力について / 話し合い	
第24回	地域交流プログラム…中央地区クリスマス会企画	
第25回	地域交流プログラム…中央地区クリスマス会企画	
第26回	地域交流プログラム反省 → 発表	レポート
第27回	ようこそ先輩(卒業生が現職について説明)	レポート
第28回	日本語能力テスト(学研)	
第29回	国家試験について(4年生による講話を含む)	レポート
第30回	後期のまとめ	レポート

■履修上の注意

基礎演習はボランティア活動、環境美化活動と合わせ、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。また、学外での活動や学外講師の講話については授業時間を変更して実施することもあり得るので留意されたい。

■評価方法

筆記試験(論述 客観) ■レポート 口頭試験 実地試験 その他
成績配分: 授業提出レポート100%

■教科書

鈴木利定、中田勝: 咸有一徳・中央法規

■参考書

科目名	ボランティア活動I			担当教員 (単位認定者)	橋本広信 (他)	単位数	1
対象学年	1年	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場で学ぶ。
- ②医療に携わるものとしての心構えを知る。
- ③ボランティア活動をする上での基本的態度を身につける。
- ④本学におけるボランティア活動の位置づけを理解できる。

■授業の概要

昌賢学園やリハビリテーション学部におけるボランティア活動の位置づけについて学ぶ。また、ボランティアへ参加するにあたっての必要な知識や技術を学ぶ。
また、本キャンパスの特徴を活かし、地域の中で活かされるボランティア活動を計画し、行っていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション ボランティア活動とは：本学におけるその位置づけ、目的	ボランティア活動体験
第2回	ボランティア活動の実際：リハビリテーション学部における位置づけと具体的実施方法について説明する	ボランティア活動体験
第3回	高齢者体験：高齢者体験を行う	ボランティア活動体験
第4回	車椅子体験：車椅子の操作方法・介助方法を学ぶ	ボランティア活動体験
第5回	ボランティア活動基礎知識①：障害に応じた対応方法について。各自で調べて発表する	各自課題を調べてまとめる
第6回	ボランティア活動基礎知識①：障害に応じた対応方法について。各自で調べて発表する	各自課題を調べてまとめる
第7回	ボランティア活動基礎知識①：障害に応じた対応方法について。各自で調べて発表する	各自課題を調べてまとめる
第8回	講話①：ボランティア活動の実際（体験豊富な外部講師）	受講内容をまとめる
第9回	ボランティア標語の作成、話し合い①	標語の作成
第10回	ボランティア標語の作成、話し合い②	標語の作成
第11回	ボランティア活動報告① 発表及びレポート	発表準備
第12回	地域貢献活動：七夕祭りの準備	ボランティア活動体験
第13回	地域貢献活動：七夕祭りの準備	ボランティア活動体験
第14回	地域貢献活動：七夕祭りの実施と反省会	ボランティア活動体験
第15回	前期のまとめ / 夏休み中の活動について話し合い	活動準備のための調査

■履修上の注意

講義は全て出席することが前提として進行する。理学療法や作業療法の学問を学ぶ上での基礎となる知識も伝えるため、積極的に参加することが望まれる。

■評価方法

筆記試験 (論述 客観) レポート 口頭試験 実地試験 その他（発表ほか）
成績配分：レポート50%、参加態度・発表50%

■教科書

昌賢学園 ボランティアハンドブック

■参考書

講義内で適宜紹介する

科目名	ボランティア活動Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	橋本広信 (他)	単位数	1
対象学年	1年	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①学内で学ぶことのできない実際の対人支援の方法を現場で学ぶ。
- ②医療に携わるものとしての心構えを知る。
- ③ボランティア活動をする上での基本的態度を身につける。
- ④本学におけるボランティア活動の位置づけを理解できる。

■授業の概要

昌賢学園やリハビリテーション学部におけるボランティア活動の位置づけについて学ぶ。また、ボランティアへ参加するにあたっての必要な知識や技術を学ぶ。
また、本キャンパスの特徴を活かし、地域の中で活かされるボランティア活動を計画し、行っていく。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第16回	後期ボランティア活動のオリエンテーション 夏休み中ボランティア活動報告	講義、話し合い
第17回	学校行事ボランティア参加事前指導(障害者スポーツ大会・あそか祭り)	講義、ボランティア活動体験
第18回	ボランティア活動基礎知識②: 医療・福祉領域における各病院・施設の特徴について調べて発表する	各自課題を調べてまとめる 発表準備
第19回	ボランティア活動基礎知識②: 医療・福祉領域における各病院・施設の特徴について調べて発表する	各自課題を調べてまとめる 発表準備
第20回	ボランティア活動基礎知識②: 医療・福祉領域における各病院・施設の特徴について調べて発表する	各自課題を調べてまとめる 発表準備
第21回	地域貢献ボランティア活動準備(企画立案)	企画準備、活動準備、ボランティア活動体験
第22回	地域貢献ボランティア活動準備(役割分担)	企画準備、活動準備、ボランティア活動体験
第23回	地域貢献ボランティア活動 実施準備	企画準備、活動準備、ボランティア活動体験
第24回	地域貢献ボランティア活動 反省 レポート	レポート
第25回	ディスカッション: ボランティア活動について改めて考える	ディスカッション準備
第26回	講話②: 国際貢献ボランティア活動報告(外部講師)	講義資料、内容参照
第27回	ボランティア活動発表会準備	発表準備、ボランティア活動体験
第28回	ボランティア活動発表会準備	発表準備
第29回	ボランティア活動発表会準備	発表準備
第30回	後期のまとめ / 1年を振り返っての反省	振り返り

■履修上の注意

講義は全て出席することが前提として進行する。理学療法や作業療法の学問を学ぶ上での基礎となる知識も伝えるため、積極的に参加することが望まれる。

■評価方法

筆記試験(論述 客観) ■レポート 口頭試験 実地試験 ■その他(発表ほか)
成績配分: レポート50%、参加態度・発表50%

■教科書

昌賢学園 ボランティアハンドブック

■参考書

講義内で適宜紹介する

3) 專門基礎科目

科目名	解剖学Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。⑥骨の連結の種類と構造を説明することができる。⑦脊柱と胸郭の連結を説明することができる。⑧四肢の骨格の連結と運動を説明することができる。

■授業の概要

生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることを目的とする。また、生理学、運動学等の基礎専門科目、整形外科学や神経内科学等の専門科目、理学療法・作業療法専門科目など全ての科目の基礎となるため、しっかりと知識を定着させること。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/人体の各部の名称と方向用語、全身骨格について説明することができる。	解剖トレーニングノート p16、37-40
第2回	骨格系-1 上肢の骨について説明することができる。	p17-19
第3回	骨格系-2 骨盤の構成について説明することができる。	p19-20、30-31
第4回	骨格系-3 下肢の骨について説明することができる。	p21-22
第5回	骨格系-4 椎骨の基本型と脊柱の構成について説明することができる。	p23-27
第6回	骨格系-5 胸郭の構成について説明することができる。	p28-29
第7回	骨格系-6 頭部の各骨について説明することができる。	p32-36
第8回	筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨とその連結について説明することができる。	p126-130
第9回	筋系-2 体幹の筋について説明することができる。	p131-136
第10回	筋系-3 脊柱と胸郭の連結について説明することができる。	p131-136
第11回	筋系-4 上肢の筋について説明することができる。	p137-140
第12回	筋系-5 上肢の骨格の連結と運動について説明することができる。	p137-140
第13回	筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結と運動について説明することができる。	p141-143
第14回	筋系-7 下肢の筋について説明することができる。	p144-151
第15回	筋系-8 下肢の連結と運動について説明することができる。	p144-151

■履修上の注意

復習に重点を置き、今日学んだことは、今日中に説明することができるようになること(必須)。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
成績配分:筆記試験100%(必要に応じて授業中のテスト、レポートを10%含めることがある)。
総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第3版. 野村巖, 医学書院
解剖トレーニングノート. 竹内修二, 医学教育出版社

■参考書

カラー人体解剖学-構造と機能: ミクロからマクロまで. F.H. マティーニ, 西村書店
ネッター解剖学アトラス. Frank H. Netter, 南江堂
プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系. 坂井建雄, 医学書院
ネッター解剖生理学アトラス. John T. Hansen, 南江堂

科目名	解剖学Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	内田 博之	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。
 ②末梢神経(体性神経(脳神経、脊髄神経)、自律神経(交感神経、副交感神経))の構成と分布先が説明することができる。
 ③骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連付けて説明することができる。

■授業の概要

人体の形態と構造の全体的な特徴を理解し、骨格系、筋系および神経系の構造と機能について知り、理解できるようになることを目的とする。また、生理学、運動学等の基礎専門科目、整形外科学や神経内科学等の専門科目、理学療法・作業療法専門科目など全ての科目の基礎となるため、しっかりと知識を定着させること。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/神経系について説明できる。	解剖トレーニングノート p178,157,222,236
第2回	脳と脊髄-1 中枢神経系の全体的な構造について説明できる。	p178-182
第3回	脳と脊髄-2 大脳と間脳の構造について説明できる。	p183-189
第4回	脳と脊髄-3 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について説明できる。	p189-201
第5回	脳と脊髄-4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路について説明できる。	p189-201
第6回	脊髄神経-1 脊髄神経後枝の構成とその枝について説明できる。	p156-158
第7回	脊髄神経-2 頸神経叢の構成とその枝について説明できる。	p159
第8回	脊髄神経-3 腕神経叢の構成とその枝について説明できる。	p160-161
第9回	脊髄神経-4 腕神経叢の構成とその枝について説明できる。	p160-161,162-165
第10回	脊髄神経-5 肋間神経の構成とその枝について説明できる。	p166
第11回	脊髄神経-6 腰神経叢の構成とその枝について説明できる。	p167-168
第12回	脊髄神経-7 仙骨神経叢の構成とその枝について説明できる。	p169-173
第13回	脊髄神経-8 仙骨神経叢の構成とその枝について説明できる。	p169-173
第14回	脳神経 脳神経の経路と機能、線維構成について説明できる。	p222-232
第15回	自律神経 自律神経(交感神経、副交感神経系)について説明できる。	p236-240

■履修上の注意

解剖見学実習は出席を前提とするため欠席しないこと。
 復習に重点を置き、今日学んだことは、今日中に説明することができるようになること(必須)。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 成績配分:筆記試験100%(必要に応じて授業中のテスト、レポートを10%含めることがある)。
 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第3版.野村巖,医学書院
 解剖トレーニングノート.竹内修二,医学教育出版社

■参考書

カラー人体解剖学-構造と機能:ミクロからマクロまで.F.H.マティーニ,西村書店
 ネット解剖学アトラス.Frank H.Netter,南江堂
 プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系.坂井建雄,医学書院
 ネット解剖生理学アトラス.John T.Hansen,南江堂

科目名	解剖学実習			担当教員 (単位認定者)	多田 真和	単位数	1
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①人体の構造を、器官系別に分類し理解できるようになる。
 ②人体の構造を、自らの手で描いて説明することができるようになる。

■授業の概要

生理学、生化学および運動学等の基礎専門科学、整形外科や神経内科学等の専門科目、さらに理学療法専門科目および作業療法専門科目のすべての科目の基礎的知識となるため、しっかりと知識を定着させ自らのものとなるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/呼吸器系(1)	教科書の該当部分を読んでおく。
第2回	循環器系(1)	教科書の該当部分を読んでおく。
第3回	脳神経1: 中枢神経の機能、大脳半球基底核の位置関係	教科書の該当部分を読んでおく。
第4回	脳神経2: 中枢神経の血管系、脳脊髄液の循環	教科書の該当部分を読んでおく。
第5回	脳神経3: 脳神経、末梢神経、自律神経 について	教科書の該当部分を読んでおく。
第6回	脳神経4: 画像診断(CT、MRI) への応用解剖	教科書の該当部分を読んでおく。
第7回	循環器系(2)	教科書の該当部分を読んでおく。
第8回	循環器系(3)	教科書の該当部分を読んでおく。
第9回	消化器系(1)	教科書の該当部分を読んでおく。
第10回	消化器系(2)	教科書の該当部分を読んでおく。
第11回	消化器系(3)	教科書の該当部分を読んでおく。
第12回	泌尿器系	教科書の該当部分を読んでおく。
第13回	内分泌系(1)	教科書の該当部分を読んでおく。
第14回	内分泌系(2)	教科書の該当部分を読んでおく。
第15回	平衡聴覚器	教科書の該当部分を読んでおく。

■履修上の注意

群馬大学での見学実習には必ず出席すること。

■評価方法

■筆記試験(□論述 □客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 成績配分: 筆記試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 解剖学第3版(医学書院)

■参考書

講義中に適宜紹介する。

科目名	生理学I			担当教員 (単位認定者)	牧 陽子	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①生理学に興味を持つこと。
- ②基本事項の正確・簡潔な理解を目指すこと。
- ③解剖学・病理学と合わせて理解を深めること。
- ④運動学・薬理学・内科学等他の基礎科目、専門科目の基礎を築くこと。

■授業の概要

生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的とし、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、実践的に理解が進められるように授業を進める。細かい知識にとらわれることなく、鳥瞰的理解を目指すこと。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション	復習・生理学で学びたいことをまとめておく
第2回	血液成分・血液細胞の生成と分化、血液凝固と線溶現象について学ぶ。	予習・教科書 第2章 血液 A-Gを読む
第3回	循環の調節を学ぶ。	予習・教科書 第3章 循環 A-Cを読む
第4回	心臓の拍動の自動性と心拍出量、心臓の刺激伝導系に関して学ぶ。	予習・教科書 第3章 循環 D-Hを読む
第5回	呼吸運動、ガス交換とガスの運搬、呼吸中枢に関して学ぶ。	予習・教科書 第4章 呼吸を読む
第6回	口腔内消化(唾液分泌機序)、嚥下運動/胃内消化/腸内消化吸収を学ぶ。	予習・教科書第5章消化と吸収A-Fを読む
第7回	肝臓・胆嚢・膵臓機能、消化酵素を学ぶ。	予習・教科書第5章消化と吸収G-Jを読む
第8回	排尿中枢を含む排尿機構を学ぶ。	予習・教科書 第6章 腎臓と排泄を読む
第9回	体液の組成(酸塩基平衡)を学ぶ。	予習・教科書 第7章 酸-塩基平衡を読む
第10回	ホルモンの基礎(ビタミンの差異)、視床下部-脳下垂体系に関して学ぶ。	予習・教科書 第8章 内分泌 A-Bを読む
第11回	甲状腺・副甲状腺・膵臓に関して学ぶ。	予習・教科書 第8章 内分泌 C-Eを読む
第12回	副腎・性腺・松果体に関して学ぶ。	予習・教科書 第8章 内分泌 F-Jを読む
第13回	糖・蛋白・脂肪代謝、体温調節中枢について学ぶ。	予習・教科書 第15章 代謝と体温を読む
第14回	運動における生体の生理的变化を学ぶ。	予習・教科書 第16章 運動生理を読む
第15回	予備日とし、理解の不十分な部分の質問を受け付ける。	予習・質問をまとめておく

■履修上の注意

出来る限り授業内に理解をして、分からないところはその場で解決すること。
授業内での質問・発言を奨励する。

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他 授業参加
成績配分: 筆記試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内に随時紹介する。

科目名	生理学Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	牧 陽子	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①生理学に興味を持つこと。
- ②基本事項の正確・簡潔な理解を目指すこと。
- ③解剖学・病理学と合わせて理解を深めること。
- ④運動学・薬理学・内科学等他の基礎科目、専門科目の基礎を築くこと。

■授業の概要

後期では神経系を中心に講義を行なう。運動器のリハビリテーションにおいても、中枢神経系の理解は今後ますます重要となる。高次脳機能を含む神経系の機能を理解し、疾患理解・リハビリテーション実施につながる理解を目指すこと。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/分子生物学の基礎を学ぶ。	予習・第1章細胞と内部環境を読む
第2回	体性感覚(皮膚感覚・深部感覚)・内臓感覚を学ぶ。	予習・第14章 感覚 A-Cを読む
第3回	視覚に関する解剖と中枢における視覚処理・知覚を学ぶ。	予習・第14章 感覚 Dを読む
第4回	聴覚に関する解剖と、中枢における聴覚・平衡感覚処理を学ぶ。	予習・第14章 感覚 E-Hを読む
第5回	シナプス、神経筋接合部の伝達様式の相同・差異を学ぶ。	予習・第11章 神経系を読む
第6回	抹消神経に分類される自律神経(交感・副交感神経系)の機能を学ぶ	予習・第12章 抹消神経系を読む
第7回	脊髄・延髄・橋・中脳・脳幹網様体の構造・機能を学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 A-Dを読む
第8回	視床下部の調節機能、大脳辺縁系の情動機能と解剖を学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 E,Hを読む
第9回	小脳・大脳基底核の運動調節機能の相同・差異を学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 F,Gを読む
第10回	大脳の解剖及び機能局在を学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 Jを読む
第11回	高次機能の記憶・言語に関して学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 Kを読む
第12回	大脳半球優位性、睡眠に関して学ぶ。	予習・第13章中枢神経系 L-Nを読む
第13回	骨格筋収縮構造として神経筋運動単位、随意運動・筋緊張の機序を学ぶ。	予習・第10章 筋の収縮を読む
第14回	中枢神経系から運動の理解を深める。	予習・第10章 筋の収縮/運動を読む
第15回	予備日とし、理解の不十分な部分の質問を受け付ける。	復習・生理学で学んだことをまとめておく

■履修上の注意

出来る限り授業内に理解をして、分からないところはその場で解決すること。
授業内での質問・発言を奨励する。

■評価方法

■筆記試験(□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他 授業参加
成績配分: 筆記試験100%

■教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院 石澤光郎 富永淳 著

■参考書

授業内に随時紹介する。

科目名	生理学実習			担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数	1
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・ 実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。(知識)
- ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。(技能)
- ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。(態度)

■授業の概要

生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解するために、実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行う。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習する。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/血圧測定の意義と方法について学ぶ。	第3章 循環
第2回	実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。	第3章 循環
第3回	心電図の測定の意義と方法について学ぶ。	第3章 循環
第4回	実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。	第3章 循環
第5回	呼吸数及び呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。	第4章 呼吸
第6回	実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。	第4章 呼吸
第7回	体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。	第15章 代謝と体温
第8回	体組成測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。	第16章 運動生理
第9回	血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。	第2章 血液
第10回	尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。	第6章 腎臓と排泄
第11回	脳の機能について学ぶ。	第11章 神経系
第12回	エネルギー産生について学ぶ。消化器系のネットワークについて学ぶ。(合同実施)	第5章 消化と吸収
第13回	エネルギー消費について学ぶ。骨、筋肉、関節のネットワークについての基礎を学ぶ。(合同実施)	第10章 筋の収縮
第14回	視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。(合同実施)	第14章 感覚
第15回	聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。(合同実施)	第14章 感覚

■履修上の注意

実習は出席を前提とするため休まないこと。
第1回～第11回まではPT OT 別々に実施する。
第12回～第15回まではPT OT 合同で実施する。

■評価方法

■最終レポート ■各回の実習報告書
成績配分: 最終レポート70% + 実習報告書30% 総合評価は最終レポートが60%以上であることが前提となる。

■教科書

医学書院 標準理学療法学・作業療法学 生理学第3版 石澤光郎他

■参考書

医学書院 図解生理学第2版 中野昭一他

科目名	運動学Ⅰ			担当教員 (単位認定者)	悴田敦子	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①関節の構造を説明することができる
- ②関節の運動方向を運動学用語で説明することができる
- ③各関節の形状分類や特性を言うことができる
- ④上肢帯の各関節名と機能、筋の働きを説明することができる
- ⑤基本的な把持動作の名称を言うことができる

■授業の概要

作業療法士は対象者の生活をリハビリする仕事と言われている。生活とは様々な姿勢で行う動作や活動の繰り返しで成り立っている。

この授業ではひとの動作や活動を評価・分析するために必要な、身体の構造と機能、体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識を学ぶ。それをもとに、上肢の機能解剖と運動を学ぶことを目的とする。

授業の内容は、解剖学・生理学の内容を基礎に学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、運動学の定義・目的 身体各部・関節の名称、基本肢位	運動学第1章、P49～50、解剖学P5～7を読んでおく
第2回	骨・関節の構造と機能について	運動学P45～51、解剖学P165～181を読んでおく
第3回	上肢の関節運動について	運動学P45～51、解剖学P165～181を読んでおく
第4回	下肢・体幹の関節運動について	運動学P45～51、解剖学P165～181を読んでおく
第5回	筋の構造と機能について	運動学P51～P65、解剖学P241～254を読んでおく
第6回	運動力学の基礎：運動とエネルギー代謝	運動学P26～38を読んでおく
第7回	上肢の機能と役割	運動学P86～88を読んでおく
第8回	肘関節と前腕の構造と運動	運動学P98～105、解剖学P140～142、P197～201を読んでおく
第9回	肘関節と前腕の筋作用	運動学P98～105、解剖学P258～266を読んでおく
第10回	手関節と手指の構造と運動	運動学P105～120、解剖学P140～145、P201～205を読んでおく
第11回	手関節と手指の筋作用	運動学P105～120、解剖学P259～269を読んでおく
第12回	上肢帯の構造と運動	運動学P88～95、解剖学P135～140、P191～197を読んでおく
第13回	肩甲骨と肩関節	運動学P88～95、解剖学P135～140、P191～197を読んでおく
第14回	肩関節の筋作用	運動学P95～98、解剖学P256～258を読んでおく
第15回	まとめ	

■履修上の注意

この授業は解剖学・生理学と重なるところが多く、また、それぞれの科目で習ったことがもとなる。解剖学・生理学と並行して学習することを勧める。また、実際に体を動かしたり、骨を触ったりすることがあるので、動きやすい服装で受講すること。

■評価方法

■筆記試験 (□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分：筆記試験 100%

■教科書

伊東元、高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学、医学書院、2012

野村巖編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学、第3版、医学書院、2012

■参考書

中村隆一・齋藤宏：基礎運動学、第6版、医歯薬出版株式会社

科目名	運動学Ⅱ			担当教員 (単位認定者)	悴田敦子	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①下肢の各関節名と機能、筋の働きを説明することができる
- ②体幹の構造、運動、筋の働きと、呼吸筋の働きを説明することができる
- ③姿勢の種類を説明することができる
- ④姿勢の安定に関係する要因を列挙し、説明することができる
- ⑤歩行周期と歩行分析を運動学用語で説明することができる
- ⑥運動処方について基本的用語を説明することができる

■授業の概要

この授業では「運動学Ⅰ」で学んだ、身体の構造と機能、体を動かすための力学、動作の基礎となる姿勢の基礎知識をもとに、下肢・体幹の機能解剖と運動を学ぶことを目的とする。また、姿勢や歩行の基礎知識を学び、姿勢・動作の分析ポイントを学ぶことを目的とする。

授業の内容は、「解剖学」「生理学」の内容及び「運動学Ⅰ」で学んだことを基礎に学ぶ。さらに、この授業で学んだことは、「ひとと作業活動」での作業分析の基礎となる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 姿勢の種類について	運動学P181～190を読んでおく
第2回	姿勢の安定性について	運動学P23～25、P190～207を読んでおく
第3回	体幹(脊柱)の構造と頸部・胸部・腰部の運動及び筋活動	運動学P155～168、解剖学P125～135、P183～189、P285～301を読んでおく
第4回	下肢の構造と役割 骨盤の運動と筋作用	運動学P168～171、解剖学P145～149、P206～208、P269～273を読んでおく
第5回	股関節の構造と運動	運動学P121～125、解剖学P150～152、P208～211を読んでおく
第6回	股関節の筋作用	運動学P125～130、解剖学P269～273を読んでおく
第7回	膝関節の構造と運動	運動学P130～136、解剖学P152～155、P211～215を読んでおく
第8回	膝関節の筋活動	運動学P136～139、解剖学P273～279を読んでおく
第9回	足関節・足部の構造と運動	運動学P140～144、解剖学P155～160、P215～222を読んでおく
第10回	足関節・足部の筋活動	運動学P144～149、解剖学P277～283を読んでおく
第11回	呼吸運動 顔面・頭部の運動	運動学P161～164、P172～181、解剖学P132～135、P189～191、P289～295、P114～126、P182～189、P284～289を読んでおく
第12回	歩行周期・運動学的分析	運動学P208～211を読んでおく
第13回	歩行周期・運動学的分析	運動学P215～219を読んでおく
第14回	運動の中枢神経機構 運動制御と運動学習	運動学P66～85、P270～273、解剖学第5章を読んでおく
第15回	まとめ	

■履修上の注意

この授業は「解剖学」「生理学」と重なるところが多く、また、それぞれの科目で習ったことがもとなる。「解剖学」「生理学」の教科書・ノート等も使用し、並行して学習することを勧める。それぞれの授業で習った専門用語は積極的に使用することを心がけること。また、実際に体を動かしたり、骨を触ったりすることがあるので、動きやすい服装で受講すること。

■評価方法

- 筆記試験 (□論述 ■客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分：筆記試験 100%

■教科書

伊東元、高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学. 医学書院, 2012
野村巖編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学. 第3版, 医学書院, 2012

■参考書

中村隆一・齋藤宏：基礎運動学. 第6版, 医歯薬出版株式会社

科目名	人間発達学			担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数	1
対象学年	1年後期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①発達の初段階と発達課題について説明することができる。
- ②ヒトの発達における各機能の発達について理解し、説明することができる。
- ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。
- ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。

■授業の概要

ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を正しく入力することでなされ、その上で様々な機能や行動を学習し成熟していく。すべての発達を通し、高齢期に満足した存在感を感じる事がこの発達のゴールであるが、人生のゴールを目指す中で身体や精神的に障害を抱えていくこともある。リハビリテーションに携わるものとして対象者の目標を考える上でヒトの発達を理解することは重要であり、QOLの観点からも発達や年齢に応じた対応をすることが専門職として求められる能力である。本講義ではリハビリテーションの基礎となる発達について広く学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション:ヒトの成長と発達、発達を支える脳神経と感覚器について	教科書p20～30を読んでおく
第2回	胎児期から誕生、原始反射について	原始反射について調べておく
第3回	乳幼児期の発達:運動発達について	反射と反応について調べておく
第4回	乳幼児期の発達:認知、社会性の発達について	教科書p74～83を読んでおく
第5回	学童期の発達について	教科書p94～98を読んでおく
第6回	青年期の発達について	教科書p117～124を読んでおく
第7回	成人期～高齢期の発達とQOLについて	教科書p134～140を読んでおく
第8回	育ちを支える社会機構	教科書p145～169を読んでおく

■履修上の注意

講義の始めに小テストを実施する。小テストは評価の対象となるため休まないこと。

■評価方法

■筆記試験 (□論述 □客観) □レポート □口頭試験 □実地試験 ■その他(小テスト)
成績配分:筆記試験70%、小テスト30% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

人間発達学 ヒトはどう育つのか 竹下研三著 中央法規

■参考書

基礎運動学 第6版 中村隆一他著 医歯薬出版株式会社

科目名	臨床心理学			担当教員 (単位認定者)	橋本 広信	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①心理的支援の裏付けとなる人格理論を理解できる
- ②事例を通して、心理臨床の実際の場面を把握できる
- ③心理アセスメントの各方法について理解し、それらを分別できる
- ④多様な心理療法の特徴を把握し、国家試験に対応する知識を得る
- ⑤心理学的視点から、人の回復と成長、発達についての道すじを描ける

■授業の概要

国家試験関連科目であり、特に頻出する心理検査、人格理論、心理療法を中心に基本事項を学習する。臨床心理学は、どのように人の病や問題、回復、成長をとらえるかという、人への見方が基礎となっているため、学習を通して、人と心を捉える見方が深められることも講義のねらいとする。(関連科目:心理学、人間発達学、精神医学他)

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、臨床心理学とは	教科書第1章を予習しておくこと
第2回	人格理論と発達理論について(第Ⅲ部)フロイトの精神分析理論と発達理論、精神分析療法の基本	教科書92頁～97頁を予習しておくこと
第3回	ユングの分析心理学とタイプ論 個性化過程について	教科書98頁～99頁、149頁を予習
第4回	ロジャーズの自己理論とクライエント中心療法 フォーカシング	教科書100頁～101頁、148頁を予習
第5回	コフト、カーンバーグ、マラー、ウィニコットの各理論	教科書102頁～108頁を予習しておくこと
第6回	エリクソンのアイデンティティ論とアイデンティティ拡散およびライフストーリー論	教科書109頁～113頁を予習しておくこと
第7回	心理アセスメント 人格検査の種類について 質問紙法① 交流分析とエゴグラム	教科書127頁～129頁を予習しておくこと
第8回	人格検査 質問紙法 YG検査、MMPI、CMI、EPPS他	教科書127頁～129頁を予習しておくこと
第9回	人格検査 投影法、その他の検査 ロールシャッハ、TAT、PFスタディなど	教科書130頁～134頁を予習しておくこと
第10回	心理療法各論 遊戯療法と芸術療法	教科書149頁～153頁を予習しておくこと
第11回	行動療法と認知行動療法	教科書156頁～157頁を予習しておくこと
第12回	自律訓練法、臨床動作法など	教科書157頁～158頁を予習しておくこと
第13回	森田療法、内観療法、想定書簡法	教科書154頁を予習しておくこと
第14回	集団精神療法 心理劇とSST	教科書158頁～159頁を予習しておくこと
第15回	国家試験模擬試験	

■履修上の注意

国家試験に関連する内容を中心に講義する。授業で学習した内容が、実際の臨床現場ではどのように展開されるか、各自でさらに学習を進めて理解すること。適宜プリントも使用するので、各自でファイルすること。教科書第Ⅱ部の事例はあらかじめ各自で読んでおくこと。

■評価方法

■筆記試験(論述 ■客観) レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
 評価配分:原則筆記試験100%、60%以上の得点であることが合格の前提となる。小テストは評価に含めないが、国家試験対策として重要である。

■教科書

人とかわかる臨床心理(第2版)(2006年)川瀬 正裕・松本 真理子・松本 英夫 著 ナカニシヤ出版

■参考書

--

科目名	一般臨床医学			担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数	2
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

到達目標： その病気がなぜ起こり、体の中ではどのような異常が起こっているのか、そしてそれを解決するためには、どのような方法をとればよいのか、簡潔にかつ的確に述べられることを目標とする。期待される学習効果： 過去に出題された、臨床医学に関連する国家試験問題が、自信を持って解答できるレベルに到達する。

■授業の概要

将来、医療の世界で活躍してゆく者にとって必要な医学の知識を、白紙の状態である君たちに、出来る限りわかりやすく、平易に伝えてゆく。人体を構成する各臓器の単位で、まずは構造（解剖）機能（生理）を学習し、ついでその破綻（病理）とその修復（治療）を、君たちが将来必ず直面する疾患に焦点を絞って解説する。1年次で並行して学習する、解剖学、生理学、生化学に役立ち、2年次で学習する、病理学、内科学に直結する内容となるよう配慮している。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/医学とは?医学の歴史、医学の分類、医療の約束事(ルール)、生命の基本構造(細胞、組織、血液)	予習は不要。授業はじめに配布されるキーワード集を参照し、当日の授業をノートまたはカードに整理することが復習となる。これが重要である。そして、適宜配布される、授業範囲に該当する過去の国家試験問題を解くことで、自分の作成した、ノート、カードが適切なものであるか、検証してゆく。この繰り返しだが、4年後の国家試験の合格に直結する。この作業を怠る者は、小テスト、期末試験で合格点を取ることは不可能である。そして、神が味方して仮に進級できたとしても、4年後の国家試験の合格は、勝ち取れない。
第2回	生命維持のしくみ1:循環器(心臓、血管)	
第3回	生活習慣病1:動脈硬化のメカニズム(高血圧症、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群)	
第4回	生活習慣病2:動脈硬化の末路(脳血管障害)	
第5回	生活習慣病3:動脈硬化の末路(狭心症、心筋梗塞)	
第6回	生活習慣病4:生活習慣病のまとめ、小テスト①	
第7回	生命維持のしくみ2:呼吸器(口腔、鼻咽腔、気管、肺)	
第8回	呼吸器の障害:炎症、閉塞性肺疾患、閉塞性肺疾患、たばこの問題	
第9回	細胞の暴走=がん:がんとは?がんの問題点、がんの治療法	
第10回	生命維持のしくみ3:消化器(消化管、腹腔内臓器)	
第11回	消化器の障害:消化管の疾患、肝炎	
第12回	生命維持のしくみ4:生体防御、免疫	
第13回	感染症:微生物学の基礎知識、日和見感染症、MRSA、結核、性行為感染症、AIDS	
第14回	次世代につながる命1:生殖(妊娠、出産、不妊症)、小テスト②	
第15回	次世代につながる命2:臓器移植、幹細胞移植、ES細胞、iPS細胞	

■履修上の注意

予習、復習の欄に記載のごとく、授業後の復習が重要である。毎回の復習の積み重ねが、小テストの結果に反映され、それが重なって期末試験の結果となる。評価方法にあるごとく、小テストも成績評価の対象となり、その比重が大きい(40%)となるため、授業直後の復習が特に重要である事を強調しておく。期末試験直前の集中対策では、太刀打ちできない。なお小テストについては、欠席の場合は0点となるので、日頃の健康管理も重要となることに注意されたい。

■成績評価配分

■筆記試験(■論述 ■客観)

評価配分: 期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者も、不合格となる。

■教科書

広範囲な内容にふさわしい適切なテキストがないため、特に指定しない。授業で配布するプリントの蓄積がテキストとなる。

■参考書

授業中に提示する

科目名	リハビリテーション医学		担当教員 (単位認定者)	栗原 卓也	単位数	2
対象学年	1年後期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

到達目標：第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられることを目標とする。
期待される学習効果：過去に出題された、臨床医学に関連する国家試験問題が、自信を持って解答できるレベルに到達する。

■授業の概要

2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。授業では、各項目について要点のみ簡潔に解説し、身についた知識が幹となり、2年次以降に学習する各専門科目に花開き、国家試験ならびに将来の現場で実を結ぶように配慮している。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、難解であり、予習は不可能である。未学習分野をプリントやビデオで補い、基礎的なところから疾患の病態に入り、その疾患に対するリハビリテーションの実際を重要点に絞って解説する。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/総論1:リハビリテーション医学の歴史、理念、医学の中での位置付け、急性期、回復期、維持期、ADL評価	予習は不要。授業はじめに配布されるキーワード集を参照し、当日の授業内容をノート、カードに整理することが復習となる。これが重要である。そして、適宜配布される、授業範囲に該当する過去の国家試験問題を解き、自分の作成した、ノート、カードが適切なものであるか、検証してゆく。この繰り返しだが、4年後の国家試験の合格に直結する。この作業を怠る者は、小テスト、期末試験で合格点を取ることは不可能である。そして、神が味方して仮に進級できたとしても、4年後の国家試験の合格は勝ち取れない。
第2回	総論2:リハビリテーション医療経済(健康保険制度、介護保険制度、身体障害者手帳)	
第3回	総論3:廃用症候群(概念、病態、防止方法)	
第4回	運動器リハビリテーション1:骨折の病態、治癒機序、後療法(リハビリテーション)	
第5回	運動器リハビリテーション2:関節疾患(変形性関節症、関節リウマチ)の病態と治療	
第6回	運動器リハビリテーション3:痛みに対するリハビリテーション(腰痛、頸肩腕痛、CRPS)	
第7回	運動器リハビリテーション4:外傷、スポーツ障害、手術後のリハビリテーションの注意点と実際。	
第8回	脳神経リハビリテーション1:脳血管障害の病態、小テスト①	
第9回	脳神経リハビリテーション2:脳血管障害の急性期治療	
第10回	脳神経リハビリテーション3:脳血管障害の回復期、維持期のリハビリテーション	
第11回	脳神経リハビリテーション4:頭部外傷の病態とリハビリテーション	
第12回	脳神経リハビリテーション5:高次脳機能障害の病態とリハビリテーション、摂食嚥下障害の病態とリハビリテーション	
第13回	脳神経リハビリテーション6:神経変性疾患の病態とそのリハビリテーション(パーキンソン病を中心に)、小テスト②	
第14回	内科領域のリハビリテーション1(呼吸器リハビリテーション、心臓リハビリテーション)	
第15回	内科領域のリハビリテーション2(生活習慣病に対するリハビリテーション)、精神科領域のリハビリテーション(うつ病の注意点)	

■履修上の注意

予習、復習の欄に記載のごとく、授業後の復習が重要である。毎回の復習の積み重ねが、小テストの結果に反映され、それが重なって期末試験の結果となる。評価方法にあるごとく、小テストも成績評価の対象となり、その比重が大きい(40%)となるため、授業直後の復習が特に重要である事を強調しておく。期末試験直前の集中対策では、太刀打ちできない。なお小テストについては、欠席の場合は0点となるので、日頃の健康管理も重要となることに注意されたい。

■成績評価配分

■筆記試験(■論述 ■客観)

評価配分:期末試験60%、小テスト①20%、小テスト②20%、とする。但し、期末試験で60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提であり、期末試験で60%の得点を得られない者は、不合格となる。また期末テストで60%の得点を得ても、小テストの結果を加味した総合評価で60%を越えない者も、不合格となる。

■教科書

最新リハビリテーション医学 米本 恭三 監修 医歯薬出版株式会社

■参考書

授業中に提示する

科目名	リハビリテーション入門		担当教員 (単位認定者)	北爪 浩美	単位数	1
対象学年	1年前期	授業方法	講義・演習・実習	必修・選択	必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①リハビリテーションについて簡潔に説明することができる。
- ②リハビリテーションの諸段階について説明することができる。
- ③WHO分類分類について理解し、説明することができる。
- ④リハビリテーションにおけるチーム医療の必要性和概要を説明することができる。
- ⑤地域リハビリテーションについて理解し、説明することができる。

■授業の概要

高齢化社会を迎え、地域に根ざしたリハビリテーションは医療と保健、福祉サービスをつなぐ重要な役割を担っている。特に自立した生活を医療の立場で支える作業療法士には、様々な角度から対象者を見つめ、適切に対応する能力が求められる。本講義では現代社会におけるリハビリテーションのニーズを学ぶとともに、WHO分類に基づいた障害の考え方を身につける。特に「作業療法入門」の講義で学習する作業療法の理念や目標を踏まえ、チーム医療の中での作業療法士の役割を確認する。また、定期的実施する確認テストでは国家試験に対応する基礎知識や考え方を自己確認し、客観的な自己の評価も身につける。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、リハビリテーションの理念：社会復帰と社会参加について	教科書p1～4を読んでおく
第2回	医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方	教科書p5～9を読んでおく
第3回	リハビリテーションの諸段階（急性期・回復期・維持期のリハビリテーション）	急性期・回復期・維持期のリハビリテーションについて調べておく
第4回	WHO分類：国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）	教科書p30～34を読んでおく
第5回	国際生活機能分類（ICF）の治療的活用について	ICFについて、具体的な例を挙げて発表できるように準備すること
第6回	リハビリテーションとチーム医療：理学療法士、作業療法士の役割について	チーム医療を構成する職種について調べておく
第7回	障害別リハビリテーションの概要	疾患別の作業療法について概要を調べておくこと
第8回	地域リハビリテーションと医療、社会福祉、法律	教科書p114～p124を読んでおく

■履修上の注意

講義の始めに小テストを実施する。小テストは評価の対象となるため休まないこと。

■評価方法

■筆記試験（論述 客観）レポート 口頭試験 実地試験 ■その他（小テスト）
成績配分：筆記試験70% 小テスト30% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

リハビリテーション総論 要点整理と用語解説 改訂第2版 椿原彰夫編 診断と治療社
作業療法学全書 第1巻 作業療法概論 日本作業療法士協会編 協同医書出版社

■参考書

ICF 国際生活機能分類 WHO 中央法規

科目名	保健医療福祉論			担当教員 (単位認定者)	大竹 勤	単位数	1
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①社会福祉の理念と意義について理解し、説明できる。
- ②社会福祉分野の現状と課題について理解し、説明できる。
- ③コミュニケーションの技術を身につけ実務に役立てることができる。

■授業の概要

理学療法士・作業療法士として医療・福祉に携わるには、ソーシャルワーカーとしての役割も担っていくことになる。社会福祉の知識を身につけることにより、社会的な支援を必要とする方に対し、社会福祉の制度や各種サービスを活用いただくためのアドバイスが可能になり、また、社会福祉の目的や理念を理解することにより、「福祉の心」を身につけ、援助が必要な方に接するときの態度を養うことができる。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション・医療福祉を学ぶ目的を明確にする。	自己紹介にて自分のやりたいことを表明できるように
第2回	現代社会と社会福祉	予習問題(宿題)をやってくること
第3回	社会福祉の理念と意義	予習問題(宿題)をやってくること
第4回	社会福祉分野の現状と課題①障害者の福祉	予習問題(宿題)をやってくること
第5回	社会福祉分野の現状と課題②高齢者の福祉	予習問題(宿題)をやってくること
第6回	社会福祉分野の現状と課題③その他	予習問題(宿題)をやってくること
第7回	社会福祉の担い手と福祉社会への展望	予習問題(宿題)をやってくること
第8回	まとめ	

■履修上の注意

演習・グループ学習等を多く取り入れるので、積極的に参加すること。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他

評価配分:筆記試験70%、提出課題等30% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

使用しない

■参考書

よくわかる医療福祉(ミネルヴァ書房)
社会福祉基礎(実教出版)

科目名	公衆衛生学			担当教員 (単位認定者)	大竹 一男	単位数	1
対象学年	1年	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		選択	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①健康の概念、健康観の歴史の変遷、公衆衛生学の概念を説明できる。
- ②人口保健統計、健康指標を通じて我が国の疾病の現況について説明できる。
- ③集団における健康現象の解析法としての疫学的研究の考え方を説明できる。
- ④健康に及ぼす環境問題の変遷と現状について述べるができる。

■授業の概要

公衆衛生学では、地域社会活動を通して、環境を整備し、疾病を予防し、かつ健康の保持増進を図ることを学ぶ。本講義では、公衆衛生の意義と歴史を学び、ライフステージや職業上で生じる健康問題と疾病予防について、さらに衛生行政や地域保健についても学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション/公衆衛生の意義及び地域保健と医療制度について学ぶ	第1章 第2章
第2回	国際保健及び疫学について学ぶ	第3章 第4章 第6章
第3回	疫学指標について学ぶ	第5章 第6章
第4回	保健統計資料の活用について学ぶ	第7章
第5回	母子保健について学ぶ	第9章
第6回	老人保健・福祉について学ぶ	第11章
第7回	精神保健福祉について学ぶ	第12章
第8回	健康づくり及び産業保健について学ぶ	第14章 第16章

■履修上の注意

復習をしっかりと行うこと。

■評価方法

■筆記試験 ■レポート

成績配分: 筆記試験80% + レポート20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。

■教科書

中外医学社 コメディカルのための専門基礎分野テキスト 公衆衛生学第2版 柳川 洋他

■参考書

授業時に配布するプリント

4) 專門科目

科目名	作業療法入門			担当教員 (単位認定者)	阿部 真也	単位数	1
対象学年	1年前期	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①作業療法について簡潔に説明できる
- ②作業療法の過程を述べることができる。
- ③作業療法の分野、対象、実施場所について述べるができる。
- ④基本的な発表方法を身につける。
- ⑤レポートをまとめることができる。

■授業の概要

授業を通し、作業療法士として知っておかなければならない基礎知識を身に付け、グループワークや見学等により作業療法の魅力を感じ、興味を持って学習する態度を養うことを目的とする。

他教科との関連は、これから学ぶ全ての作業療法専門領域科目の基礎となる。特に、リハビリテーション入門で学ぶ「ICF」、1年前期後半ひとと作業と授業内容が深く関係している。国家試験としても出題される内容である。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション、作業療法の紹介	教科書第1章を読んでおくこと。
第2回	作業の定義(国語辞典、英和辞典をもってくる。電子辞書可)	教科書P28～31を読んでおくこと。
第3回	作業の分類、ライフサイクルと作業	教科書P37～40、P41～46を読んでおくこと。
第4回	作業の用い方、健康と作業、環境と作業	小テスト レポート 教科書P31～37、P47～52を読んでおくこと。
第5回	作業療法の定義、身分法	教科書P23～27を読んでおくこと。
第6回	作業療法の対象、目的、領域、病期	小テスト 教科書P53～56、P175～204を読んでおくこと。
第7回	作業療法の歴史	小テスト 教科書第3章を読んでおくこと。
第8回	ICFと作業療法	レポート 教科書第4章を読んでおくこと。
第9回	作業療法過程	小テスト 教科書P211～218を読んでおくこと。
第10回	病院見学	見学したことをその日のうちにまとめておくこと
第11回	病院見学発表:グループ発表	レポート 効果的な発表方法、レポートの書き方を文献やインターネットで調べておくこと
第12回	まとめ	

■履修上の注意

見学は出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習が多いため、積極的に参加すること。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 □その他
評価配分:筆記試験70%、レポート30% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
小テストは評価に含めないが、国家試験対策として重要である。

■教科書

杉原素子編:作業療法学全書 改訂第3版 第1巻 作業療法概論.協同医書出版

■参考書

「作業」ってなんだらう 作業科学入門 吉川ひろみ 医歯薬出版

科目名	ひとと作業			担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数	1
対象学年	1年前期後半	授業方法	(講義)・演習・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①人の生活における作業の種類を理解する。
- ②作業選択時の注意点・留意点を説明することができる。
- ③作業・作業活動の治療的意味について学び、説明することができる。
- ④作業分析(一般的分析)の主要項目を説明できる。
- ⑤作業分析(一般的分析)の一覧に基づき、体験した作業活動を分析することができる。

■授業の概要

作業療法入門にて学んだ「作業療法における作業の意味、ひとの生活における作業の分類や種類」について復習し、作業を治療的に用いるために必要となる理論と作業分析について学ぶ。
また、実際に体験した作業活動を分析することを体験しながら学ぶ。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション 作業の意味、作業と生活について復習し、理解する。	教科書①P.1-22、
第2回	作業の治療的に意味について学ぶ(理論)	提示された課題を行う 教科書①のP.62-84を読む
第3回	作業の治療的に意味について学ぶ・考える(体験・まとめる)	提示された課題を行う 教科書①のP.62-85を読む
第4回	作業の治療的に意味について学ぶ・考える(まとめて発表)	レポート作成
第5回	作業分析について学ぶ(理論)	授業内でまとめたことを復習する
第6回	作業分析について考える・体験する(体験・まとめる)	授業内でまとめたことを復習する
第7回	作業分析について学ぶ(まとめて発表)	授業内でまとめたことを復習する
第8回	まとめ	授業内でまとめたことを復習する

■履修上の注意

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 ■その他
評価配分:筆記試験60%、授業内提示課題・レポート40% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提。

■教科書

- ①山根寛(著)ひとと作業・作業活動 第2版 三輪書店
- ②杉原素子(編)作業療法全書 第1巻 作業療法概論 第3版 協同医書

■参考書

吉川ひろみ「作業」ってなんだろう 作業科学入門 医歯薬出版株式会社

科目名	ひとと作業活動I			担当教員 (単位認定者)	山口 智晴	単位数	1
対象学年	1年後期	授業方法	講義・(演習)・実習	必修・選択		必修	

■授業の到達目標・期待される学習効果

- ①各具体的作業活動についてその工程や使用する道具の正式名称、使用方法などを説明することができる。
- ②各作業活動について、作品の自由度や段階づけについて説明することができる。
- ③各作業活動について、その治療的適応について理解し、説明することができる。

■授業の概要

作業療法入門やひとと作業で学んだ治療手段としての作業・作業活動の意味について、実際の作業体験を通して学んでいく。
実際に各自で作業活動を体験し、それぞれの作業活動を分析していくことで理解を深める。

■授業計画

回数	授業内容	予習・復習
第1回	科目オリエンテーション。 マクラメ:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第2回	マクラメ:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第3回	籐細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第4回	籐細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第5回	籐細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第6回	皮細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第7回	皮細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第8回	皮細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第9回	皮細工:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第10回	機織り:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第11回	機織り:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第12回	機織り:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第13回	アンデルセン:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第14回	その他作業療法で用いられる代表的な活動:道具や材料、その特性、作品の治療的適応や段階づけについて理解する	授業内でまとめたこと、配布プリントを復習する。体験したことをまとめる。
第15回	総括:各作業活動ごとの治療的適応について復習する	授業内で説明したことをまとめる。

■履修上の注意

授業の構成は全ての出席を前提とするため休まないこと。
グループ学習や課題作成があるため、積極的に参加すること。

■評価方法

■筆記試験(■論述 ■客観) ■レポート □口頭試験 □実地試験 ■その他(作品)
評価配分:筆記試験65%、レポート20%、作品15%(総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提)

■教科書

- ①山根寛(著)ひとと作業・作業活動 第2版 三輪書店
- ②伊東元(編)標準理学療法学作業療法学 運動学 医学書院

■参考書

岩瀬義昭(編)基礎作業学実習ガイド 協同医書出版

作業療法専攻

2年次以降授業計画概論

科目名	基礎演習Ⅱ	単位数	1	2年通年	必修
■授業の概要					
基礎演習Ⅰに引き続いて、建学の精神に基づき、人間としての基礎的教養力と問題解決の力を養う。マナー・一般常識・環境美化・ボランティアといった自律的実践能力を身につける。人生観や職業観を深め、専門演習への円滑な移行を図る。					

科目名	ボランティア活動Ⅱ	単位数	1	2年通年	必修
■授業の概要					
ボランティア活動Ⅱを通じて、各種現場実習を行うにあたっての基本となる知識・技術を習得する。「ボランティア活動Ⅰ」で学び身につけた知識やコミュニケーション能力や技術をさらに向上させる。特に、建学の精神である『仁』に基づき、医療福祉に携わることへの「心構え」、人の心の機微「人間愛」を身につけることを目的とする。					

科目名	国家試験対策Ⅱ	単位数		2年通年	必修
■授業の概要					
これまでに履修した科目に対する国家試験問題に取り組む。					

科目名	運動学実習	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
運動・動作分析に必要である機能解剖学や運動力学的知識を学ぶと共に、実際に身体を動かすなどの演習を通して理解を深めていく。					

科目名	病理学概論	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学ぶ。特に将来作業療法士として必要となる病理学関連の用語を理解し、基本的な疾患の病態について学ぶ。					

科目名	内科・老年医学Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
内科学に関する基本的な症候を学ぶと共に、加齢と老化に伴って生じる身体の変化について学んでいく。					

科目名	内科・老年医学Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
各器官の疾患に関する基本的な知識を学ぶと共に、高齢者に特徴的な症候と疾患について学ぶ。特に、リハビリテーションに関連する疾患についてを重点的に学習する。					

科目名	整形外科学Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
運動器の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけではなく保存的治療も重要である。作業療法はその保存的治療で重要な役割を担う。骨関節疾患を中心に基本的事項を学ぶ。					

科目名	整形外科学Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
筋、神経の損料、スポーツ外傷、切断、手の外科など、リハビリテーションに関連する様々な整形外科的な疾患について学ぶ。					

科目名	神経内科学Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
神経・筋疾患は、リハビリテーションの主要な対象疾患であり、疾患に対する正しい理解が必須である。神経筋疾患の患者に対する作業療法を学ぶ上での基礎となる学問である。					

科目名	神経内科学Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
リハビリテーションの対象となる頻度が高い、神経筋疾患について、各疾患の基本的症候や評価などについて学ぶ。					

科目名	精神医学	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
精神疾患に関する基本的な知識を身につけ、それぞれの疾患における特徴的な事項とその治療などについて学ぶ。					

科目名	小児科学	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
小児の発育と発達について学ぶと共に、小児期の感染症について学ぶ。また、作業療法の対象となることが多い、知的障害、肢体不自由の原因疾患についても基本的な事項を学ぶ。					

科目名	作業療法入門実習	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
病院見学を通して、病院の概要、作業療法士の業務内容・役割を利害する。そして、作業療法士が対象者とのコミュニケーションをどのように取っているのか、評価・治療の際の準備・後片付け・立ち位置・表情・伝え方・言葉使い等を学ぶ。県内の病院に分かれて学生は配置される。					

科目名	ひとと作業活動Ⅱ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
ひとと作業活動Ⅰに引き続き、作業療法の治療的手段となる基礎的な作業・作業活動について学習する。実際に作業・作業活動を体験し、作業工程や作業の持つ特性について理解を深める。					

科目名	作業療法評価法Ⅰ	単位数	2	2年前期	必修
■授業の概要					
作業療法における評価理論と技術の概要を学習する。					

科目名	作業療法評価法Ⅱ	単位数	2	2年後期	必修
■授業の概要					
作業療法における各疾患別評価技術を習得する。					

科目名	身体機能作業療法学Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
身体機能に対する作業療法を実施するために、必要な知識・技術を学ぶ。整形外科疾患・末梢神経損傷等に対する治療方法を教授する。					

科目名	身体機能作業療法学Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
本講義では、複雑な運動障害、感覚障害、認知障害などの症状を呈する脳血管疾患や脊髄損傷の評価や治療方法を、実技も交えながら教授する。					

科目名	精神機能作業療法学Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
精神障害領域のリハビリテーションにおける作業療法の役割を、疾患別、時期別、提供する領域別などの視点から学ぶ。					

科目名	精神機能作業療法学Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
幅広いライフステージや回復過程に応じた精神障害領域のリハビリテーションにおける作業療法の実践および地域生活支援の視点・実践について学習をする。					

科目名	ひとと暮らしⅠ	単位数	2	2年前期	必修
■授業の概要					
日常生活活動や生活関連活動の概念とそれぞれの活動に必要な基本的技能について講義する。基本的な起居・移乗・移動動作の介助方法や毎日行っている日常生活活動の動作分析を通して理解を深める。日常生活活動の評価法を概観し、作業療法計画立案に必要な評価方法の基礎を学ぶ。					

科目名	ひとと暮らしⅡ	単位数	2	2年後期	必修
■授業の概要					
ひとと暮らしⅠで学んだ各ADLの分析を踏まえ、主に脳血管障害に対するADLの分析・評価・介入方法を実習を通して学ぶ。また、障害特性を考慮した安価な自助具を作成し発表する。					

科目名	作業療法治療学Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
作業療法士として人が行う動作や作業を分析することは日常的に必要な活動である。動作や作業を効率的かつ確実に分析するために基礎となる運動の過程を詳細に理解し、人の動作、作業を分析する力を身につける。					

科目名	地域作業療法学入門Ⅰ	単位数	1	2年前期	必修
■授業の概要					
介護保険制度について学ぶ。また介護保険制度の中での作業療法士の役割と実践について教授する。					

科目名	地域作業療法学入門Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
地域リハビリテーションに関わる様々な制度、支援、他職種との連携について学ぶ。地域作業療法の実践に必要な基礎知識（主に社会保障制度と社会福祉関連）をしっかりと身につけることを目的とする。					

科目名	地域作業療法実習Ⅰ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
行政（市町村）の施設および事業に見学・参加し、行政および地域における作業療法士の役割、業務内容等について学ぶ。					

科目名	地域作業療法実習Ⅱ	単位数	1	2年後期	必修
■授業の概要					
介護老人保健施設で実習を行い、介護保険における作業療法士の業務内容、役割等について学ぶ。					

科目名	専門演習Ⅰ	単位数	1	3年通年	必修
■授業の概要					
基礎演習によって培った各種スキルを基に、各種臨床実習において必要とされる社会的スキルを身につける。また、就職に向けた準備を行なう。					

科目名	国家試験対策Ⅲ	単位数		3年通年	必修
■授業の概要					
これまでに履修した科目に対する国家試験問題に取り組む。					

科目名	作業療法研究法	単位数	1	3年前期	必修
■授業の概要					
科学的研究の種類、取り組み方、文献検索の講義を通して、研究に必要な基本的知識と態度の習得を図る。作業療法における課題から、研究テーマの選択や研究仮説の設定、研究計画書の作成を通して作業療法に対する基本的知識を学習する。					

科目名	作業療法セミナーⅠ	単位数	1	3年通年	必修
■授業の概要					
作業療法研究法を基に実際の研究がどのように計画され実行されていくかの基本的な視点について文献購読を中心に教授する。それらを通して卒業研究のテーマを絞り込んでいく。なお、本講義はゼミ形式で行う。					

科目名	作業療法評価法Ⅲ	単位数	1	3年前期	必修
■授業の概要					
作業療法評価の流れを確認し、評価項目の選択、問題点の抽出、作業療法ゴールの設定、作業療法プログラムの立案までをケーススタディーを通して学びます。					

科目名	作業療法評価法特論Ⅰ	単位数	1	3年後期	選択
■授業の概要					
高次脳機能障害等の評価について学ぶ。					

科目名	作業療法評価法特論Ⅱ	単位数	1	3年後期	選択
■授業の概要					
臨床評価実習前に各種検査項目を確認する。					

科目名	発達過程作業療法学Ⅰ	単位数	2	3年前期	必修
■授業の概要					
特に乳幼児から青年期までを対象とした作業療法についてを学ぶ。対象児個人の可能性を広げるために、発達途上にある対象児について生物学的視点と心理・社会的視点から疾患別に学び、家庭生活や教育環境などで生かすことのできる適切な援助法を具体的に学習する。					

科目名	発達過程作業療法学Ⅱ	単位数	1	3年後期	必修
■授業の概要					
発達過程の対象者に行われる様々な検査バッテリーの概要、実施上の注意点について理解する。また、症例検討を通し、発達過程における作業療法の評価・目標設定・治療プログラム立案を行う。					

科目名	高齢期作業療法学Ⅰ	単位数	2	3年前期	必修
■授業の概要					
高齢社会の到来とともに、老年期障害領域での作業療法の需要は急速に高まっている。特に認知症者への対応については、作業療法が果たす役割は非常に大きいものである。本講義では、老化とともにさまざまな疾患や障害を持ち、複雑な状態を示す高齢障害者に対する作業療法援助のあり方とその実際を、事例を交えながら教授する。					

科目名	高齢期作業療法学Ⅱ	単位数	1	3年後期	必修
■授業の概要					
高齢期作業療法学で学習した事項を踏まえ、グループワーク、事例検討を通して、高齢期作業療法実践の基礎を身に付ける。					

科目名	義肢装具学	単位数	1	3年前期	必修
■授業の概要					
義肢装具の概念、対象となる疾患・障害、処方・製作までの流れを学び、義肢装具の基本的な目的と原理を理解する。また、主な義肢装具の分類・名称・構造を知り、対象者にとってどのような義肢装具が必要かを考える力を身につける。					

科目名	作業療法治療学Ⅱ	単位数	1	3年前期	必修
■授業の概要					
神経内科疾患の評価と治療を学ぶ。また、関節リウマチの評価と治療をケーススタディーを通して学ぶ。					

科目名	作業療法治療学Ⅲ	単位数	1	3年前期	必修
■授業の概要					
精神障害に対する作業療法の提供のために、治療構造の理解とセラピスト自身が与える個人、集団への影響について学び、人の健康状態を個人の心身の状態、日常生活活動の状態と制限、それらと個人因子や環境因子との交互作用から捉える障害構造論と、回復段階に応じたトータルリハビリテーションという立場から、精神の病とそれに伴う生活障害およびそれらに対する援助について学ぶ。					

科目名	作業療法技術論Ⅰ	単位数	1	3年前期	選択
■授業の概要					
作業療法対象者の評価は、対象者の動作、表情、視線など様々な要素を分析することで進められる。対象者から得られる言語的サインに加え、非言語的サインを観察することは、対象者の身体状況のみならず精神状態の評価となり、作業療法を実施する上で非常に重要な事項となる。授業では観察から得られる対象者の情報を評価につなげるための分析を行う。					

科目名	作業療法技術論Ⅱ	単位数	1	3年前期	選択
■授業の概要					
内部障害、ターミナルケアにおける作業療法の役割、実践過程を教授する。					

科目名	作業療法技術論Ⅲ	単位数	1	3年前期	選択
■授業の概要					
作業療法の実践過程を理解し、評価計画や治療計画の立案手順や方法について学ぶ。また、身体障害に対する具体的な作業療法の介入方法を学ぶとともに、具体的な実技練習を行う。					

科目名	作業療法特論Ⅰ	単位数	1	3年後期	選択
■授業の概要					
作業療法における集団活動の立案、実施、結果の分析について学ぶ。					

科目名	作業療法特論Ⅱ	単位数	1	3年後期	選択
■授業の概要					
作業療法における高次脳機能障害の見方や治療の理論について学び、更に機能障害別に症状・評価法・アプローチ法について教授する。					

科目名	臨床評価実習指導Ⅰ	単位数	1	3年後期	必修
■授業の概要					
臨床評価実習Ⅰの実習前セミナー、実習後セミナーを行う。実習終了後は、担当したケースの発表・報告会を行い、疾患・ケースに対する理解を深める。					

科目名	臨床評価実習指導Ⅱ	単位数	1	3年後期	必修
■授業の概要					
臨床評価実習Ⅱの実習前セミナー、実習後セミナーを行う。実習終了後は、担当したケースの発表・報告会を行い、疾患・ケースに対する理解を深める。					

科目名	臨床評価実習Ⅰ	単位数	3	3年後期	必修
■授業の概要					
医療機関において臨床評価実習を3週間実施する。各実習施設でスーパーバイザーの指導のもと、対象者の評価、問題点抽出、作業療法ゴール設定、作業療法プログラム立案まで行う。					

科目名	臨床評価実習Ⅱ	単位数	3	3年後期	必修
■授業の概要					
臨床評価実習Ⅰと同様に医療機関において臨床評価実習を3週間実施します。臨床評価実習Ⅰにおいて課題となった事項を踏まえ、各実習施設でスーパーバイザーの指導のもと、対象者の評価、問題点抽出、作業療法ゴール設定、作業療法プログラム立案まで行います。					

科目名	専門演習Ⅱ	単位数	1	4年通年	必修
■授業の概要 建学の精神に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を養成する。また、礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通し身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神を持つ自立した社会人としてのスキルアップを図る。また、国家試験や就職に向けての対策を行う。					

科目名	作業療法管理論	単位数	1	4年前期	必修
■授業の概要 適切な作業療法の提供には、作業療法技術の質向上だけでなく、技術を効率的に運用するための基盤である管理・運営の視点が求められる。また、作業療法実践や研究において倫理的な問題に真摯にこたえていかなければならない社会的責任を負っている。本講義では管理・運営に関する基本的な視点と我々が常に意識し実践しなければならない倫理的態度の基本的な視点を教授する。					

科目名	作業療法セミナーⅡ	単位数	1	4年通年	必修
■授業の概要 卒業研究を指導教官指導のもと完成させてゆく。なお、本講義はゼミ形式で行う。					

科目名	作業療法特論Ⅲ	単位数	1	4年前期	選択
■授業の概要 訪問リハビリテーションにおける作業療法の役割、実践方法について教授する。					

科目名	作業療法特論Ⅳ	単位数	1	4年前期	選択
■授業の概要 障害者や高齢者のできるだけ自立した生活や介護負担軽減を目的として実施される住宅改修の内容と障害適用について教授する。					

科目名	総合臨床実習指導Ⅰ	単位数	1	4年前期	必修
■授業の概要 総合臨床実習Ⅰの実習前セミナー、実習後セミナーを行う。実習終了後は、担当したケースの発表・報告会を行い、疾患・ケースに対する理解を深める。					

科目名	総合臨床実習Ⅰ	単位数	8	4年前期	必修
■授業の概要 医療機関等において臨床総合実習を8週間実施する。これまでに受けた教育をもとに、臨床総合実習において、臨床実習指導者の指導によって知識・技術および治療者としての基本的態度を総合的に学び、作業療法士としての基礎を確立する。各実習施設の臨床実習指導者の指導のもとに、与えられた症例に対して基本的作業療法を実施する。作業療法評価、治療プログラム立案、ゴール設定、情報収集、治療プログラムの実施、考察などを中心に実践を通して作業療法を学んでいく。					

科目名	総合臨床実習指導Ⅱ	単位数	1	4年後期	必修
■授業の概要					
総合臨床実習Ⅱの実習前セミナー、実習後セミナーを行う。実習終了後は、担当したケースの発表・報告会を行い、疾患・ケースに対する理解を深める。また、実習を終えた時点で4年間の学習理解度を図る試験を実施する。					

科目名	総合臨床実習Ⅱ	単位数	6	4年後期	必修
■授業の概要					
介護老人保健施設または医療機関等において臨床総合実習を6週間実施します。臨床総合実習Ⅰにおいて課題となった事項を踏まえ、臨床実習指導者の指導によって知識・技術および治療者としての基本的態度を総合的に学び、作業療法士としての基礎を確立する。各実習施設の臨床実習指導者の指導のもとに、与えられた症例に対して基本的作業療法を実施します。作業療法評価、治療プログラム立案、ゴール設定、情報収集、治療プログラムの実施、考察などを中心に実践を通して作業療法を学んでいきます。					

科目名	卒業研究	単位数	2	4年通年	必修
■授業の概要					
テーマを設定し研究論文を作成する。					